

vol. 03

令和2年度 第3号
(年間4回発行 通巻第157号)

組合活性化情報 中央会とくしま

新年特別企画

令和3年 新春対談

特集

令和2年度 徳島県の労働事情

徳島県中小企業団体中央会 <http://www.tkc.or.jp/>



組合活性化情報 中央会とくしま

vol. 03

令和2年度 第3号
(年間4回発行 通巻第157号)

新年特別企画

令和3年 新春対談

一般社団法人 徳島経済同友会
代表幹事 坂田千代子 氏

×

徳島県中小企業団体中央会
会長 布川 徹 氏

2

特集

令和2年度 徳島県の労働事情

～中小企業労働事情実態調査報告書(抜粋)～

9

組合クロースアップ 第7回

協同組合 徳島総合流通センター

17



井口鉄工所株式会社

20



組合ホットニュース

23

- ◎鴨島電気工事協同組合
通学路の街路灯清掃点検ボランティアを実施
- ◎徳島市両国本町商店街振興組合
東京高円寺阿波おどりの歴史展を開催
- ◎徳島県木材買方協同組合
第12回児童木工工作「木とふれあうコンクール」審査会を開催
- ◎クリエイティブ徳島協同組合
オンライン展示会に向けたセミナーを開催
- ◎徳島県クレーン協同組合
第1回四国クレーン塾を開催
- ◎徳島県鉄鋼協同組合
令和2年度率先避難企業訓練を実施
- ◎協同組合徳島県旅行業協会
WITH コロナ安全安心観光提案旅行事業成果報告会を開催



情報連絡員レポート

27

令和2年10月の景気動向



青年部コーナー

28

◎青年部活動トピックス

◇徳島県商工3団体青年部第1回事業打合せ会議◇ ほか



女性部コーナー

29

◎女性部活動トピックス

◇とくしまレディース中央会「企業視察及び交流会」を開催◇



中央会トピックス

30

◎徳島県新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に
関する条例に基づく取組みの促進について要望

◎第72回中小企業団体全国大会(茨城県)を開催

◎令和2年度 第2回常任理事会を開催

◎Web会議ツール活用研修会を開催

◎効果的な中小企業販路開拓支援事業実践模擬商談会を開催

中央会事務局職員

十人十色

34

◎総務課主事 沖津 美舟



お知らせコーナー

35

◎新型コロナウイルス感染症対策

徳島県新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に関する条例が制定されました!

編集
後記



表紙絵

作者: 徳島県中小企業団体中央会顧問 布川 嘉樹 氏

タイトル: 「吉野川橋と眉山」

吉野川北岸から吉野川橋と眉山を望む風景は徳島市を象徴する景観の一つ。「この景色を見ると徳島に帰ってきたことを実感します」と県外から帰省した人は話します。17連のアーチが美しい吉野川橋は、全長1071mの曲弦ワーレントラス橋です。それまで洪水のたびに流されていた木橋に代わる永久橋として、昭和3年に完成。着工から完成まで約3年かかりました。当時その長さは東洋一を誇り、開通は4万人もの人々にぎわったそうです。開通当時の橋の色は赤茶色で、現在の水色に塗り替えられたのは戦後になってからです。橋の両側の歩道橋は歩行者安全のため後から取り付けられました。



新年特別企画

令和3年 新春対談

「令和2年の経済状況と令和3年の徳島経済の見通し、女性の活躍と働き方改革の推進について」

新年明けましておめでとうございます。新年特別企画として、一般社団法人徳島経済同友会の坂田千代子代表幹事と本会の布川徹会長に、令和2年の経済状況と令和3年の徳島経済の見通し、女性の活躍と働き方改革の推進について、大いに語って頂きました。

写真右から――

【出席者】

坂田千代子氏 (一社) 徳島経済同友会 代表幹事
布川 徹氏 徳島県中小企業団体中央会 会長

【司会進行】

藤原 有希 徳島県中小企業団体中央会 主事



☆令和2年を振り返って

【司会】

まず令和2年を振り返ってお話を頂きたいと思います。令和2年は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい世界中が不安に包まれました。また、その影響で、「新しい生活様式」への対応、働き方改革の推進など、中小企業を取り巻く環境は、大きく変化しています。

このような状況の下、お感じになられたことについて布川会長からお願い致します。

【布川会長】

令和2年は、2月頃から新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、現在も終息する気配がありません。コロナ一色の一年となってしま

い、中小企業を取り巻く環境は大きく変化し、厳しい一年になりました。

このコロナ禍が社会構造の変化を生み、移動の自粛、3密を避けるなど、企業が仕事をする上で、リアルな商売や商談などが全くできなくなりました。特に観光業、外食飲食業では大きな影響を受けています。イベント・催事の中止などによって、社会経済活動が止まってしまったと感じています。

製造業における販売方法についても、リアル店舗での販売からネット販売にシフトし、対応できる企業、対応できない企業で明暗が分かれています。

しかしながら一方で、このコロナ禍でも、大きく売り上げを伸ばし、業績を上げている企業もあります。ピンチをチャンスに変え、世の中

の動きを機敏に捉える必要があると思います。

[坂田代表幹事]

令和2年は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、従来にはなかったような「新しい生活様式」が生まれることとなりました。コロナとの共存が必要となった今、誰もが「ニューノーマル」への変革に取り組まなければならない状況となっています。

ビジネスにおいても同様で、今まで「当たり前」であったことが通用しなくなって、新しい時代に必要とされるビジネスを展開しなければ受け入れられなくなってしまいました。

徳島県でも、コロナ禍において中小企業を取り巻く環境は一変し、一部を除いたほとんどの中小企業が厳しさを増していると思います。

しかしながら、悪いことばかりではなく、時代が変わる変革期には、必ずチャンスが生まれ、新しいビジネスも生まれます。自社の強みを活かした、新しいことへの挑戦をしなければ生き残れないという時代がやってきたことを実感させられる一年であったように思います。

☆令和3年の徳島経済の見通しについて

[司会]

令和3年の徳島経済の見通しについてお話をご頂きたいと思います。

令和3年の明るい話題としては、令和3年春に、四国横断自動車道・徳島津田IC～徳島沖洲IC間が開通することがあります。

しかしながら、徳島駅前の「そごう徳島店」が閉店し、中心市街地の空洞化の加速が懸念されます。

これらの状況を踏まえ、令和3年の徳島経済の見通しについて布川会長からお願い致します。

[布川会長]

まず、新型コロナウイルス感染症については、終息しない現状にあります。ワクチンや特效薬などの開発により恐れる病気でなくなることを期待しています。また、「WITH コロナ」と言われるように、この感染症と上手く付き合っていかなければならないと思います。

なお、景気は、文字どおり「気持ち」に大きく左右されると思います。そごう徳島店跡地への三越の出店、県市協調による音楽ホールの問

題解決といった明るい話題があり、悪いことがあっても、良いことに目を向け、前向きに捉えて行動することが大切です。

令和2年はコロナ禍による様々な規制がありましたが、令和3年には、そのような規制も徐々に解除されてくると思われます。今まで抑制されていたものがなくなることで、景気は全体的に良くなり、それに伴い私達自身も社会を明るくするための努力をしないといけないと思います。

[坂田代表幹事]

令和3年は「WITH コロナ」の社会で、「ニューノーマル」に対応する時代となります。

なお、ご存知のように、パソナグループが東京から淡路島への本社機能移転を打ち出すなど、企業も「脱・東京→地方移転」の動きが出始めており、都会の働き手が地方を目指して移動する「地方の時代」は本格化すると思います。

そんな中、徳島にUターンIターンを希望している方々を呼び込むには、「働ける仕事」、「新しい産業」が必要です。

幸い徳島には、起業家が育つ土壌があります。人口に対する社長数の割合を示す「社長輩出率」は常に全国トップクラスです。

令和2年から始まった「徳島イノベーションベース」によって、起業家による講演やワークショップも始まっていますが、その成果に期待したいところです。

今年は、徳島の至る所で、新しいビジネスが生まれる一年となって、そして働く人が都会から地方を目指す一年になると思います。

また、懸念される徳島の中心市街地の空洞化については、新音楽ホール計画に関連して、新しい中心市街地のあり方、徳島ならではのコンパクトシティの模索など、徳島のグランドデザインを描くスタートの一年になると思います。

加えて、明るい話題の一つに、Jリーグ「徳島ヴォルティス」J2優勝でJ1昇格が決まり、経済の活性化も大いに期待できると思います。

[布川会長]

徳島県が数年取り組んでいるUターンIターンには期待しており、先程、坂田代表幹事からあったようにコロナ禍でさらに加速すると考えています。私ども中小企業も県と歩調を合わせて推進していきたいと思っています。

☆女性の活躍推進について

【司会】

現在、日本社会を取り巻く環境は、少子高齢化の進展に伴う労働人口の減少、イノベーションやグローバル化への対応など、大きく変化しています。このような中、政府の成長戦略の一つとして、女性の活躍推進が求められています。

それぞれのお立場から女性の活躍が経営にもたらす影響、期待されることなどについて伺いできますでしょうか。

【布川会長】

少子高齢化で、労働人口の減少は避けられず、高齢者、女性、外国人問わず、皆が活躍できる社会になって欲しいと思います。

女性が働きやすい職場環境を実現するためには、休暇などの制度の見直しや女性に配慮した工場現場の改善など労働環境の整備が必要です。今後、企業は積極的に対応していかなければ生き残っていけない時代になります。

女性の社会進出により、今まで男性だけでは気付かなかった事に気付かされ、そこから新しいビジネスが創出されることが予想されます。女性が活躍するためには、とりわけ、育児への支援は重要で、男性の育児休暇も取得しやすい環境を整備していくことも必要です。このような環境を整備することが、女性のみならず、ひいては全ての労働者にとっての活躍推進につながります。

例えば、私の経営する富士ファニチア株式会社では、今まで男性が使用することが前提で物事を捉えて、家具を製造販売していましたが、

女性が持つ感性や多様な視点などを取り入れることにより、様々な相乗効果が生まれ、ものづくりに良い影響を与えてくれています。

また、家具の購入を決めるのは女性であり、男性の発想で作った家具で良いのかという疑問が常にあり、今後も女性に認められる家具を作っていきたいと思っています。

【坂田代表幹事】

IoT や AI の進化によって、デジタル技術革命が起こる「Society 5.0」の時代が目前に来了。政府の経済成長戦略の一つとして「女性の活躍推進」が挙げられていますが、今回のコロナ禍において、このIoTに支えられて、実際にテレワークでの業務が進行しました。これは、女性の働きやすい環境が、さらに加速したということになります。

徳島県の現状では、「女性社長比率全国トップクラス」（現在2位）ということは有名ですが、その他に過去のデータも含めると「女性の管理職比率」、「家計に占める妻の所得割合」、「男性育児参加率」、「子育て支援認定企業」、「審議会の女性委員の比率」が全国トップクラスという女性の活躍に関しては、輝かしい実績を持っています。

「阿波女」は、よく働き、明るく活動的、経済観念が発達しており、勝気であると語り継がれています。これは昔からの阿波商人気質を持つ「阿波女」が、日本の各種統計でトップクラスの実績を誇っているのも当然かもしれません。

女性は消費者の視点に近いので、女性が活躍することによって、企業の業績も良くなると言われています。



これからの少子高齢化の時代において、徳島は女性が活躍できる土壌がありますから、地域経済の活性化には女性の活躍が大いに役立つと思います。

[司会]

これからの時代活躍が期待される女性ですが、その活躍を阻む特に大きな課題として、妊娠・出産・育児、その後の職場復帰に伴う上司の意識改革や仕事と家庭の両立における環境の問題などがあります。坂田代表幹事、ご自身の経験なども踏まえましてお話を伺えますでしょうか。

[坂田代表幹事]

テレワークの定着によって、フルタイム雇用以外の多様な働き方ができるようになったことは、子育てママにとって、仕事の幅が広がったことになります。

しかし、課題はまだたくさんあります。徳島において保育所は、かなり整ってきていると思いますが、「小1の壁」と言われる学童保育の整備は、まだ十分とは言えないようです。

また、ニーズの高い「病児・病後児の預かり」においても、まだまだ対策は必要です。

加えて、核家族化により、子育ての悩みや相談はSNSなどネット上に答えを求める傾向にあります。

このような子育てに対する不安を無くすためにも、公的サービスで乳幼児から就学時まで途切れのないサービス、企業側や社内での職場復帰に向けた理解と多様な働き方に対する体制づくりが求められています。

なお、徳島経済同友会の「阿波女」活躍推進

委員会では、平成30年に会員企業の経営者と女性社員に対してアンケート調査を行いました。

その結果、分かったことは、

- ①女性活躍に対する経営者の意識は高く、女性の継続就業のため支援している企業は多いこと。
- ②子供ができて、ずっと職業を持った方がよいと考える女性社員は72%であり、子供ができたなら働かない方がよいと思っているのは、わずか3%であること。
- ③公的サービスにおいて「保育サービスの充実」「多様な働き方の推進」「学童保育の充実」を望む声が多いこと。

などの事が聞かれ、それを踏まえアンケート結果の課題や要望をまとめて、平成31年3月に、徳島県知事に女性活躍のための提言を行いました。

[布川会長]

女性が活躍できる環境の実現には、公的機関によるサービスも良いことですが、地域の高齢者によるボランティアの協力があっても良いと思います。高齢者が若い人や子供と接することは、自分自身の喜びや自己の活性化にもつながりますから、このような取り組みを社会全体で広げていくことも大切なことです。

[坂田代表幹事]

昔は地域で子供を育てる感覚がありましたが、今は分断されている感覚があります。地域の高齢者によるボランティアの仕組みを作ると、女性の活躍にもつながると思われ、それが良い社会の循環になれば良いと思います。



☆レディース中央会の今後の活動について

【司会】

中央会では、中小企業組合等で活躍する女性の交流や研鑽の場を作り、活動の輪を拡大するため、「とくしまレディース中央会」を令和元年6月2日に設立し、その活動に各種支援を行っています。

坂田代表幹事は、徳島経済同友会において、「阿波女」活躍推進委員会の委員長などの重責を務められ、女性経営者としてご活躍されています。

そこで、「阿波女」の気質、またとくしまレディース中央会の今後の活動の参考のために、「阿波女」活躍推進委員会の活動状況などについて伺いしてもよろしいでしょうか。

【坂田代表幹事】

まず「とくしまレディース中央会」さんにおかれましては、令和元年8月に徳島経済同友会の「阿波女」活躍推進委員会が主催しました「徳島女性活躍サミット」にご参加いただきありがとうございました。その際には約15団体の方が、「阿波女」の活躍推進について熱く語り合ってくださいました。

これからも是非、お互いに「阿波女」の活躍の後押しができるように、緩やかで友好的な連携をお願いしたいと思います。

「阿波女」活躍推進委員会は、当初は女性活躍推進委員会の名称で活動していましたが、委員会の名称を「阿波女」活躍に変更すれば、徳島にしかないということで、「阿波女」活躍に名称を変更しました。

「阿波女」活躍推進委員会の活動については、先程申し上げた平成30年に行ったアンケート結果をもとに徳島県への提言を行い、令和2年度には、女性の活躍推進のために、企業経営者や働く女性社員へ提言を行う準備をしています。

阿波女の気質ですが、「阿波女」は、昔から「讃岐男に阿波女」と言われ、働き者で明るく、勝気であると称されています。とにかく働くことに前向きで、「働かなければいけないから働く」のではなく、「働きたいから働く」という自己実現型の女性が多いのではないのでしょうか。この前向きな姿勢が特徴であると思います。

この阿波女気質は、全国に誇れる特徴であると思いますので、「阿波女」をブランド化して、これから来る地方の時代に、都会の人で「阿波女になりたいから、徳島に移住したい」という人が続出するようにインパクトをもって発信してほしいと願っています。

【司会】

布川会長は、「阿波女」の気質についてどう思われますか。また、「とくしまレディース中央会」の今後の活動に期待することなど、伺いできますでしょうか。

【布川会長】

「讃岐男に阿波女」と言われるように、阿波女のイメージは、「働き者」、「質素儉約」、「自分の意見を持っている」という良妻賢母の印象を持っています。

現在、レディース中央会の中本ユミ子会長が、当会の副会長に就任していますが、まだまだ中央会の役員には、女性役員が少ないと感じてい



ます。徳島は女性経営者の比率が全国2位と非常に高い県ですが、当会の会員組合においては、女性役員が少ない状況にあります。もっと女性が参加できるような組合、中央会にしなければいけないと思っています。まず、組合の幹部となって活躍して欲しいと思っています。そのためには、女性が組合活動に関与できるような体制の構築が必要で、男性には無い女性の感性をもっと活かせるような組合にしていけることが重要であると思っています。

そしてレディース中央会においては、女性ならではの感性と視点で組合、ひいては業界の活性化に取り組んで頂き、当会にもどんどん新しい風を吹き込んで欲しいと思っています。

☆働き方改革の推進について

[司会]

現在、新型コロナウイルス感染拡大の防止を目的に、都市部の多くの企業では、テレワークや時差出勤が増加し、働き方が大きく変化しています。

また、新型コロナウイルス感染症の終息には、時間がかかると言われており、いわゆる「WITH コロナ」ということで、新しい生活様式の導入が求められています。

そこで、WITH コロナ時代における自社の働き方改革の推進の状況などについてお話し頂きたいと思います。布川会長からお願い致します。

[布川会長]

富士ファニチア株式会社では、働き方改革がコロナ禍で加速したと思います。以前から積極的なWeb会議は導入していましたが、コロナ禍の状況を踏まえ、システムをバージョンアップし、社内外問わずのWeb会議、採用でもWeb面接を行っています。

また、営業部門では、拠点に集合せず、10年以上前から自宅でグループウェアにより業務が出来るような体制を構築しており、コロナ禍でも影響を受けず、業務が継続できています。

現在、業務の効率化のため、業務の見える化に取り組んでおり、社員同士が業務に協力し合えるよう、今後も積極的に働きやすい環境の取り組みを進めていきたいと思っています。

[坂田代表幹事]

株式会社あわわでは、スタッフの半分以上がテレワークを経験しました。当社としても、以前からテレワークの推進に取り組んでいましたが、コロナ禍という状況により、さらにテレワークの推進を後押しした形となりました。

なお、当社のスタッフは、ノートパソコンを業務で使用するため、自宅などで仕事ができます。また、チャットワークを導入しており、スタッフが部門長に対し、業務開始の報告が行え、その仕事内容は日報で管理できました。

現在、あわわでは、女性スタッフが7割となり、そのうち約半分がママさんスタッフです。特にママさんスタッフにおいては、子供の学校が休校となった時に、テレワークが利用できて良かったようです。なお、スタッフの中で、長期でテレワークを利用する人はほとんどいません。

当社では、各スタッフの状況に合わせて働くフレックスタイムが定着しており、チャットワークやサイボウズのキントーンなどを導入し、より情報共有しやすく、働きやすい環境になっています。

今後、多様な働き方の一つとして、副業というのも視野にありますが、副業については、事業領域の関係で現在は実現できていませんが、さらに時代が進むとチャレンジできるようになると思います。

☆令和3年の目標について

[司会]

最後になりますが、令和3年の干支は、丑年です。丑年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年になると言われています。

そこで、令和3年のお二人の目標について、お話し頂きたいと思います。布川会長からお願い致します。

[布川会長]

中央会職員は、コロナ禍で体力の弱っている組合や中小企業の力になって欲しいと考えています。また、それぞれの職員一人一人が中小企業の立場で考えて行動してもらいたいと思っています。

そこで、令和3年は、「力になる中央会、役に立つ中央会、為になる中央会」という3つの

スローガンを掲げ、邁進していきたいと思います。

そして、今後も引き続き会員組合の皆様の意見や要望を取りまとめ、その実現に向け、国や徳島県などに対し他の経済団体などと連携しながら働きかけ、効果的な経済対策や支援につなげていきたいと考えています。

私自身の目標については、いつまでも健康で100歳になっても走れるように人生を送りたいという願いがあり、健康診断A評価を目標に頑張っていきたいと思います。

[坂田代表幹事]

徳島県は、「地域ブランド調査2020」の都道府県別魅力度ランキングで、46位と残念な結果となってしまいました。「地方の時代」になり、「豊かな自然と美味しい食」があると言っても、アピール不足の面があり、徳島の強みを活かした「徳島にしかない魅力、徳島ならではの魅力」を発信していくことが必要です。

また、働く場所や生活する場所が選択できる時代になってきた時に重要なことは、「徳島」で魅力的な仕事を創り出して、外部人材を活用し、「その人達がずっと徳島で暮らしたい。」と思えるような価値をすることであると思います。

加えて、地方で新しいビジネスを創る時に忘れてはいけないのが、国際化の視点です。「地方で他にはない良い商品を作って、世界で売る」という海外を見据えたアイデアが重要で、令和3年の徳島には、新ビジネスの創出に期待しています。

[布川会長]

地方の中小企業においても他社に真似できない独自の商品、技術、サービスなどがあります。これからの時代は、特色のあるビジネスモデルを構築することが重要であると思います。

今はインターネットを使って、徳島に居ながら世界中と商売ができる時代になっています。

そこで、徳島の中小企業は、徳島や国内だけに目を向けるのではなく、海外にも視野を広げることによってチャンスが生まれてくると思います。

[坂田代表幹事]

令和3年干支の丑は、一步一步着実に物事を進めていく年なので、「本格的な地方の時代の幕開け」に「徳島県が選ばれる」ように徳島の魅力を育てていく「芽が出る」一年となって欲しいと思います。

そのためには、徳島の魅力を上げるためのブランドデザインをしっかりと描いて、3年後、5年後にここまで、その後10年、20年後とその計画が着実に実行されていくようなビジョンを作るという第一歩の一年となって欲しいと思います。

私自身の目標については、新しい習い事に挑戦したいと思います。

[司会]

本日は大変お忙しい中、貴重なご意見をいただきありがとうございました。



特集

令和2年度 徳島県の労働事情

～中小企業労働事情実態調査報告書(抜粋)～

2020年は、世界中で新型コロナウイルス感染症が蔓延し、経済活動が大きく抑制されるなど猛威を振るっており、日本経済も大きなダメージを受けています。コロナ禍による日本経済の停滞は、労働者の失業や所得減を招き、特に非正規雇用や低所得層においては、解雇や一般職員との所得格差が以前に比べてさらに広がっています。

内閣府の月例経済報告によると、2020年の我が国経済の基調判断は4月以降、景気の急速な悪化が続いており、極めて厳しい状況にありましたが、社会経済活動の再開、政府による積極的な経済政策の効果により、持ち直しの動きがみられると言われています。しかし、米中貿易摩擦、日韓関係の悪化、英国のEU離脱など海外情勢の不安定な状況の影響が懸念されるなど、様々な要因による国内経済への悪影響が強く危惧される状態にあります。

また出口の見えない新型コロナウイルス問題など、国内外の経済や金融資本市場の動向については流動的な要素が多く、今後の企業の生産活動や消費マインドの冷え込みなどの影響を注意深く見守っていく必要があります。

一方、徳島県内の景況に目を転じますと、景気は一部持ち直しの動きがあるものの、依然続く消費動向の低調な推移に加え、原材料価格・燃料価格の高騰により企業収益が圧迫され、景気の低迷が続いています。さらに人員の不足感は既往ピークの水準で推移しており、雇用情勢回復による労働力不足の逼迫、また人口減少と少子高齢化による労働人口の減少が今後の課題として新たな経済成長に向けた取り組みが不可欠であります。

こうした中、コロナ禍をきっかけにテレワークが普及し働き方・生活様式等の様々な見直しが迫られており、労働事情を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。中小企業にとって重要な経営資源である人材を確保するためには、雇用環境の整備など従業員の多様な働き方への対応が各企業に求められます。

本調査では県内の中小企業を対象として経営状況や、週所定労働時間をはじめとする労働時間、新規学卒者の初任給、賃金改定の実施状況に加え、今年は新たに高年齢者の雇用状況、新型コロナウイルス感染症の影響についての調査を行い、結果を取りまとめました。

〔I〕 調査のあらまし

1. 目的

本調査は、徳島県内の中小企業における労働事情を的確に把握し、労働環境の整備・改善の指標となることを目的として昭和39年より毎年全国一斉に実施しており、本年度も調査を実施したものである。

2. 調査の方法

当中央会が調査対象事業所(600事業所)を任意に抽出し、調査票を郵送にて送付・調査回収したものを全国中小企業団体中央会において一括集計したものである。

3. 調査対象並びに事業所数

調査対象事業所は従業員300人以下の中小企業600事業所で次の業種を対象とし、製造業57.0%、(342事業所) 非製造業43.0% (258事業所) の割合で調査したものである。

製 造 業	非 製 造 業
1. 食料品製造業	1. 運輸業
2. 繊維工業	2. 建設業
3. 木材・木製品製造業	a. 総合工事業
4. 印刷・同関連業	b. 職別工事業（設備工事業を除く）
5. 窯業・土石製品製造業	c. 設備工事業
6. 化学工業	3. 卸売業
7. 金属・同製品製造業	4. 小売業
8. 機械器具製造業	5. サービス業
9. その他の製造業	a. 対事業所サービス業
	b. 対個人サービス業

4. 調査時点 令和2年7月1日現在

〔Ⅱ〕 回答事業所の概要

1. 調査回収の状況

今回調査の回答事業所は、220事業所であり、産業別にみると、製造業が119事業所で従業員数は4,150人、非製造業が101事業所で従業員数は3,954人となっている。

これを従業員規模別でみると「10～29人」規模が75事業所で34.1%と最も多く、続いて「1～9人」規模が63事業所で28.6%、「30～99人」規模が62事業所で28.2%、「100～300人」規模が20事業所で9.1%となっている。

2. 労働組合の有無

労働組合の状況についてみると、回答数220事業所のうち、労働組合が企業別に組織されている事業所、並びに従業員が何らかの労働組合に加入していると回答したものが13事業所で、組織率は5.9%であった。（前年17事業所、組織率7.5%）

これを、従業員の規模別にみてみると「100～300人」規模20事業所のうち6事業所（組織率30.0%）に労働組合があり、「30～99人」規模では62事業所中4事業所（組織率6.5%）にあるという回答を得た。労働組合がある13事業所のうち10事業所（組織率76.9%）が30人以上規模の事業所であるという結果となった。

また、業種別に見ると、製造業では9事業所（組織率7.6%）、非製造業では4事業所（組織率4.0%）の事業所に労働組合があるとの回答であった。

3. 雇用形態別構成比

雇用形態を「正社員」、「パートタイマー」、「派遣」、「嘱託・契約社員」、「その他」の5つの形態に分類して調査を行った。結果、従業員の雇用形態は「正社員」は78.9%（対前年比2.1%減）、「パートタイマー」は12.2%（対前年比不変）、「派遣」は0.8%（対前年比0.8%減）、「嘱託・契約社員」は6.0%（対前年比2.6%増）、「その他」は2.1%（対前年比0.3%増）となっている。

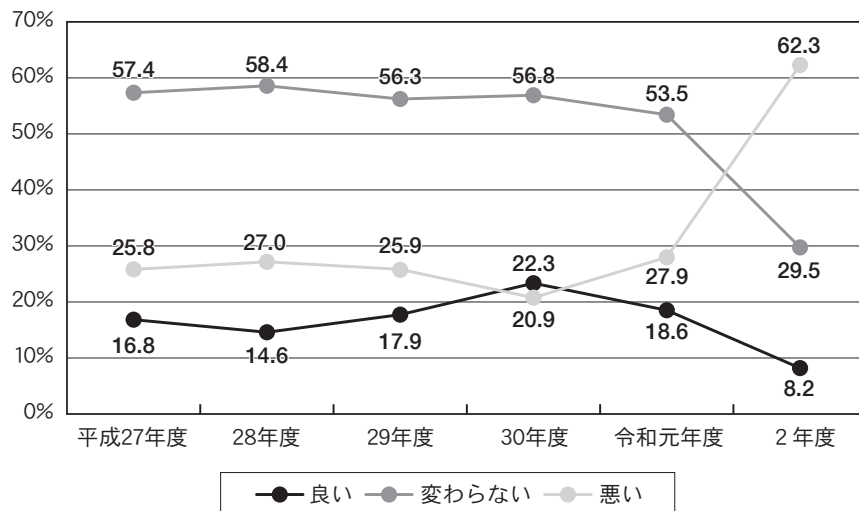
男女比率で見ると、正社員雇用の「男性」は87.5%（対前年比1.9%減）、「女性」は61.5%（対前年比1.8%減）という結果が出た。前回の調査時に比べ「男性」「女性」ともに正社員の割合が減少となった。

〔Ⅲ〕 調査結果の概要

1. 経営状況

(1) 経営状況

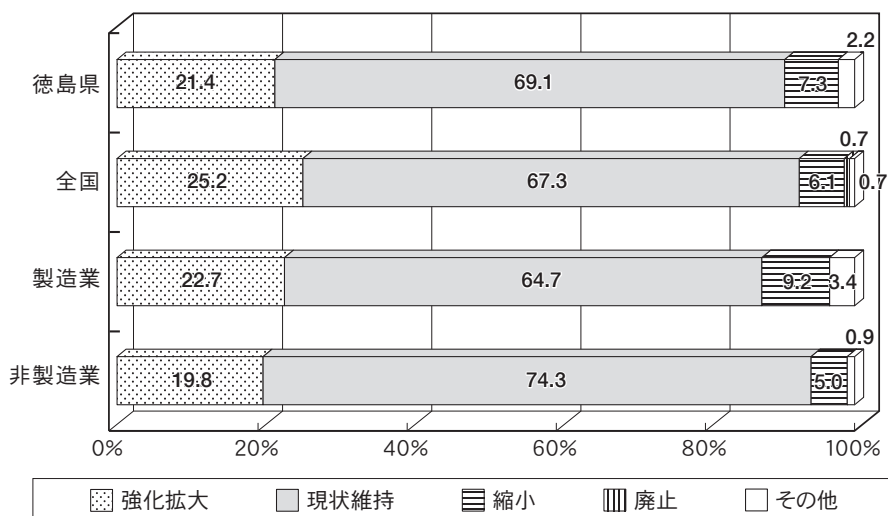
経営状況は1年前と比べてどう思うかについて回答を求めたものであり、徳島県全体では「良い」と回答した事業所は8.2%（対前年比－10.4%）、「変わらない」は29.5%（対前年比－24.0%）、「悪い」は62.3%（対前年比＋34.4%）となっている。平成27年度からの全体の推移を見ると、ほぼ横這いで推移していたが、今年度は「悪い」と回答した事業所が大幅に増えており、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が窺える結果となった。



<徳島県の経営状況の推移>

(2) 主要事業の今後の方針

主要事業の今後の方針については、回答数220企業のうち「現状維持」が全体の69.1%（昨年60.0%）と半数以上を占めており、次いで「強化拡大」が21.4%（昨年32.9%）、「廃止」の回答はなく、（昨年0.4%）、「縮小」が7.3%（昨年6.7%）であった。今年も「現状維持」の回答が多く、慎重な経営中心が多い中、平成27年度以降の全体の推移からは、「強化拡大」と回答した企業が約3割で推移していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり2割と減少した。



<主要事業の今後の方針>

(3) 経営上の障害

中小企業における経営上の障害について12項目を列举し、その中から3項目以内複数回答を求めた。徳島県全体では「販売不振・受注の減少」50.5%（前年28.9%）との回答が最も多く、「人材不足（質の不足）」44.5%（前年53.3%）、「労働力不足（量の不足）」25.2%（前年34.2%）、が経営上の障害として上位にあげられた。

(4) 経営上の強み

中小企業における経営上の強みについて12項目を列举し、3項目以内複数回答を求めた。

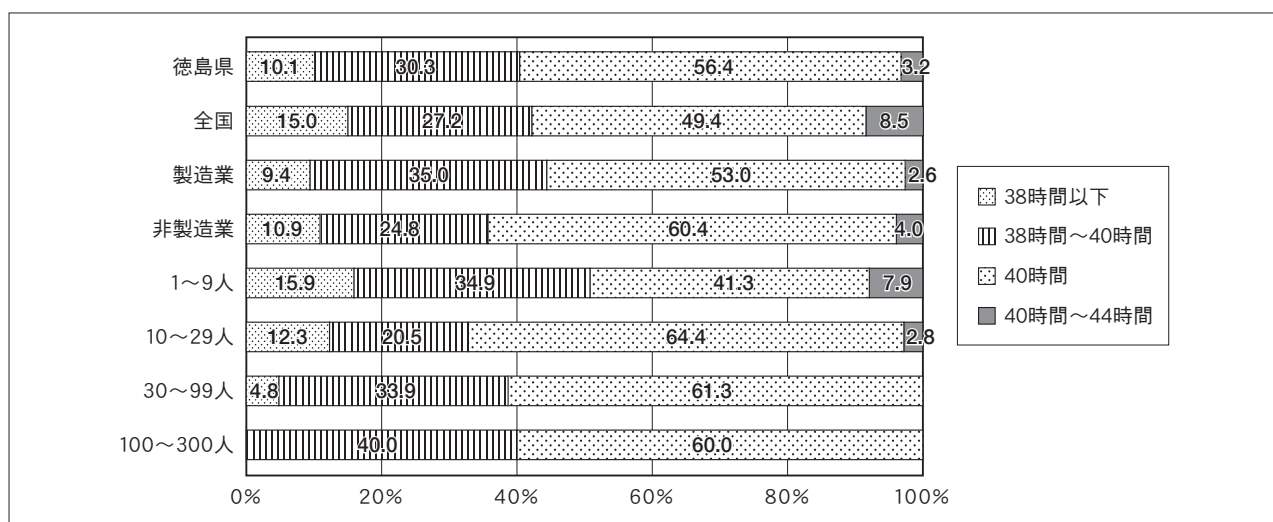
最も多かった回答が「製品・サービスの独自性」が29.8%（前年26.7%）続いて、「技術力・製品開発力」28.0%（前年26.2%）、「製品の品質・精度の高さ」で26.1%（前年28.9%）の順となっている。

2. 従業員の労働時間

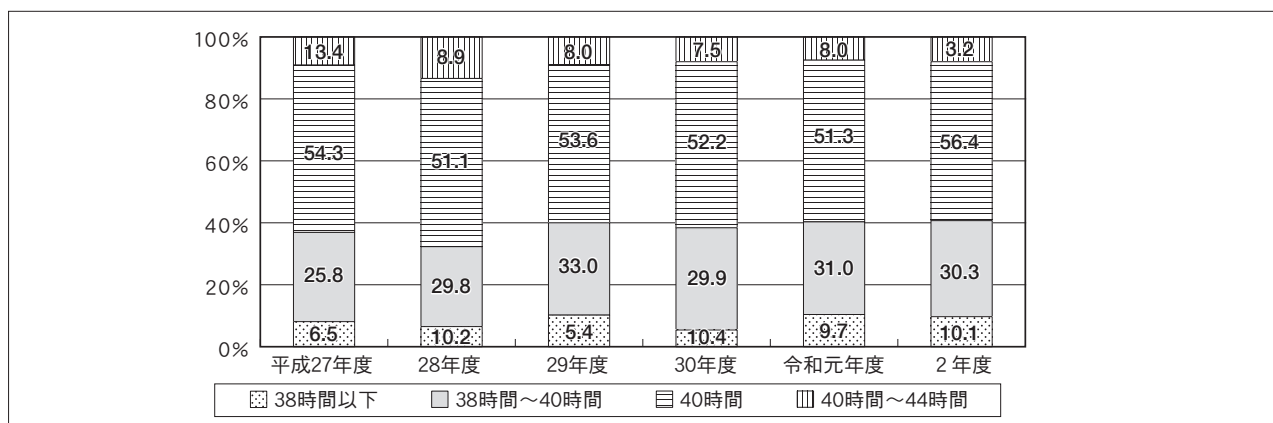
(1) 週所定労働時間

従業員の週所定労働時間は、徳島県全体では昨年同様「40時間」と回答した事業所が最も多く56.4%（全国平均49.4%）であった。次いで「38～40時間」の30.3%（全国平均27.2%）であった。「1～9人」の事業所で「週40時間」を超える割合が高い。

過去5年間の推移で見ると、「週40時間」を超える事業所の割合は減少傾向にある。



<週所定労働時間>

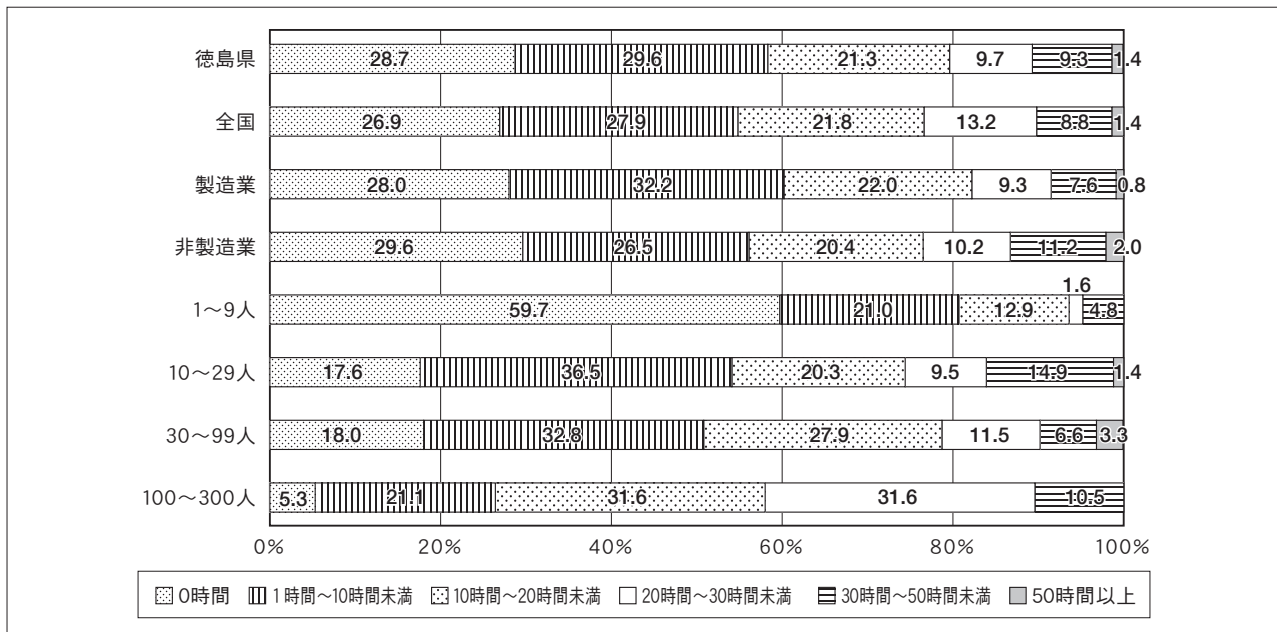


<徳島県の週所定労働時間の推移>

(2) 月平均残業時間

従業員1人当たりの月平均残業時間については、徳島県では10.31時間、全国平均10.97時間であり、前年度より減少となった。（前年 徳島県11.98時間）。規模別で見ると、「1～9人」の事業所で「残業なし」と回答した割合が6割を占めた。

過去5年間の推移でみると、残業がないと回答した事業所は減少傾向にあったが、今年度は微増した。しかし、依然として長時間労働が問題となっており、長時間労働の削減は喫緊の課題である。



＜月平均残業時間＞

(3) 従業員1人当たりの年次有給休暇の平均付与・取得日数・取得率

令和2年の徳島県の平均年次有給休暇の付与日数は15.69日（全国平均15.53日）であり、これに対して、平均取得日数は7.89日（全国平均8.53日）、平均取得率は54.13%（全国平均58.05%）という結果となった。

3. 新規学卒者の充足率・初任給

令和2年3月卒の新規学卒者の採用計画に対し、計画通り採用できた事業所の割合（採用充足率）をみると、「高校卒」67.6%（昨年72.3%）、「専門学校卒」54.5%（昨年77.8%）、「短大卒（含高専）」77.8%（昨年66.7%）、「大学卒」69.1%（昨年79.0%）の充足率となっている。

全国的な労働雇用環境の改善を背景に、県内企業が新規学卒者の採用に苦戦している状況が伺える。

(1) 初任給（令和2年3月卒）

徳島県における新規学卒者の初任給は、次表のような回答結果となっている。

		初 任 給				参 考	
		単純平均	(前年比)	加重平均	(前年比)	前年度(単)	前年度(加)
高 校 卒	技 術 系	162,037	99.6	162,715	99.6	162,654	163,353
	事 務 系	151,036	95.8	150,029	95.0	157,633	157,933
専門学校卒	技 術 系	156,988	87.5	156,988	87.5	179,370	179,370
	事 務 系	151,100	83.9	151,100	83.9	180,000	180,000
短 大 卒 (高専含)	技 術 系	196,923	109.5	189,727	106.8	179,800	177,500
	事 務 系	—	—	—	—	—	—
大 学 卒	技 術 系	200,271	94.7	205,871	97.7	211,289	210,673
	事 務 系	194,802	102.1	199,739	104.8	190,682	190,538

＜新規学卒者の初任給＞

(2) 新規学卒者の採用

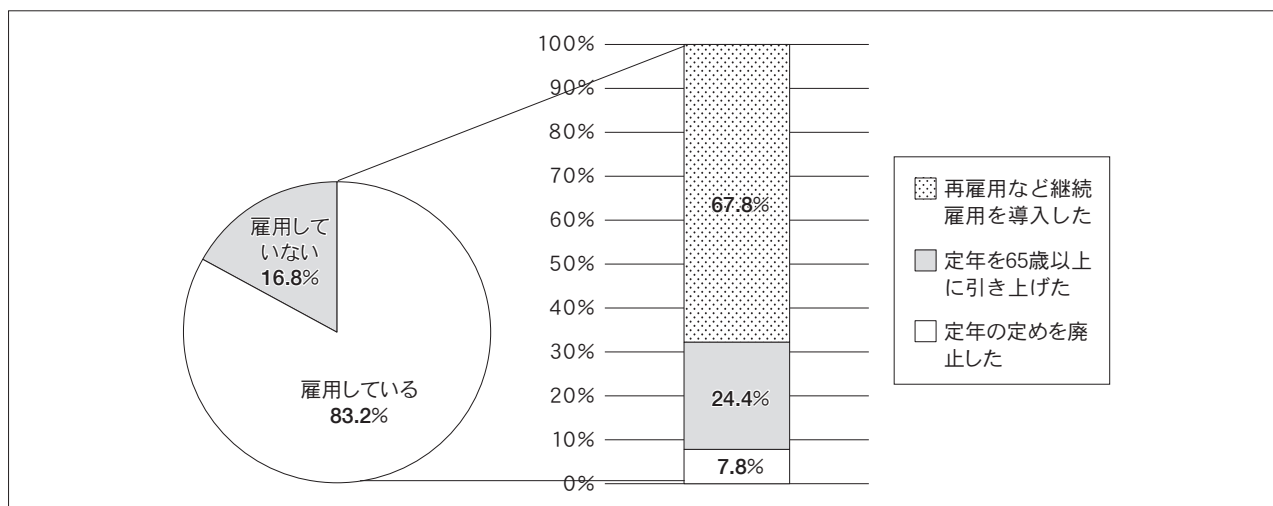
令和3年3月の新規学卒者の採用計画で「採用計画がある」と回答した事業所は28.6%（前年31.4%）、「ない」が49.5%（前年46.5%）、「未定」が21.8%（前年22.1%）となっている。

徳島県では「採用計画がある」と回答した中小企業が微減。「採用計画がない」企業は半数を占めており、新規学卒者の就職環境は依然として厳しい状況にあると言える。

4. 高齢者の雇用について

(1) 高齢者の雇用状況と雇用措置への対応

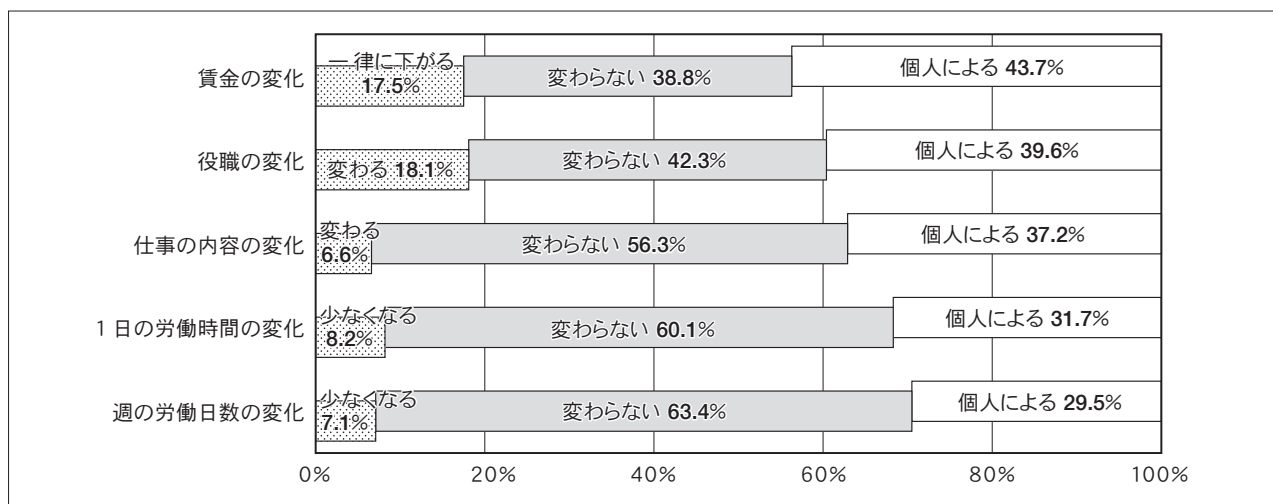
徳島県の60歳以上の高齢者の雇用状況については、「雇用している」との回答が83.2%であった。また高齢者雇用措置に伴い、どのような措置を講じたかについては「再雇用など継続雇用を導入した」が最も多く67.8%となり、「定年を65歳以上に引き上げた」が24.4%、「定年の定めを廃止した」が7.8%の順となっている。



＜高齢者の雇用状況と講じた措置＞

(2) 60歳前との労働条件の比較

高齢者雇用措置の対象となる高齢者の60歳前の労働条件との比較では、賃金については、「個人による」との回答が最も多く43.7%であった。賃金以外の4項目については、「変わらない」との回答が最も多く4割～6割を占める結果となった。



＜60歳前との労働条件の比較＞

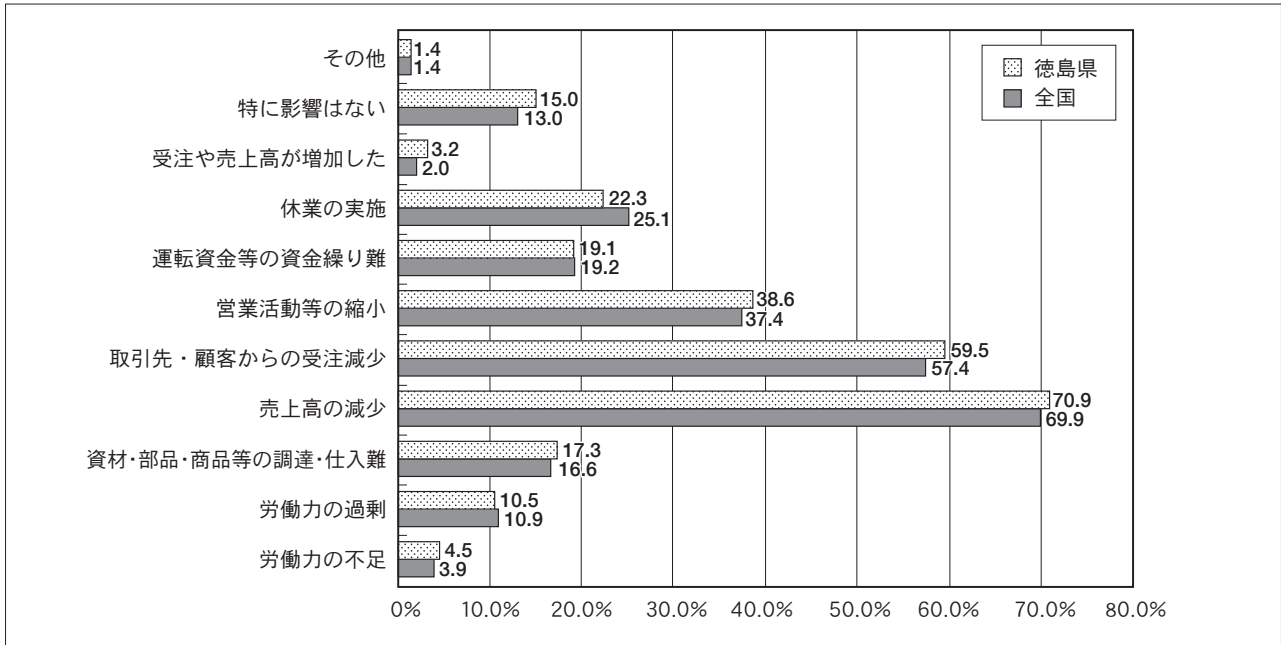
(3) 高齢者就業確保措置の把握状況

令和3年4月1日の改正に伴い、高齢者就業確保措置新設の把握状況について回答を求めたところ、「把握している」が51.1%、「把握していなかった」が48.9%となった。またどのような措置を講じるかについては、「今後他社の対応等の情報収集しながら考えたい」が最も多く51.4%となり、次いで、「70歳までの継続雇用制度の導入」が22.5%、「定年の廃止」が9.9%の順となっている。(複数回答)

5. 新型コロナウイルス感染拡大による影響

(1) 経営への影響

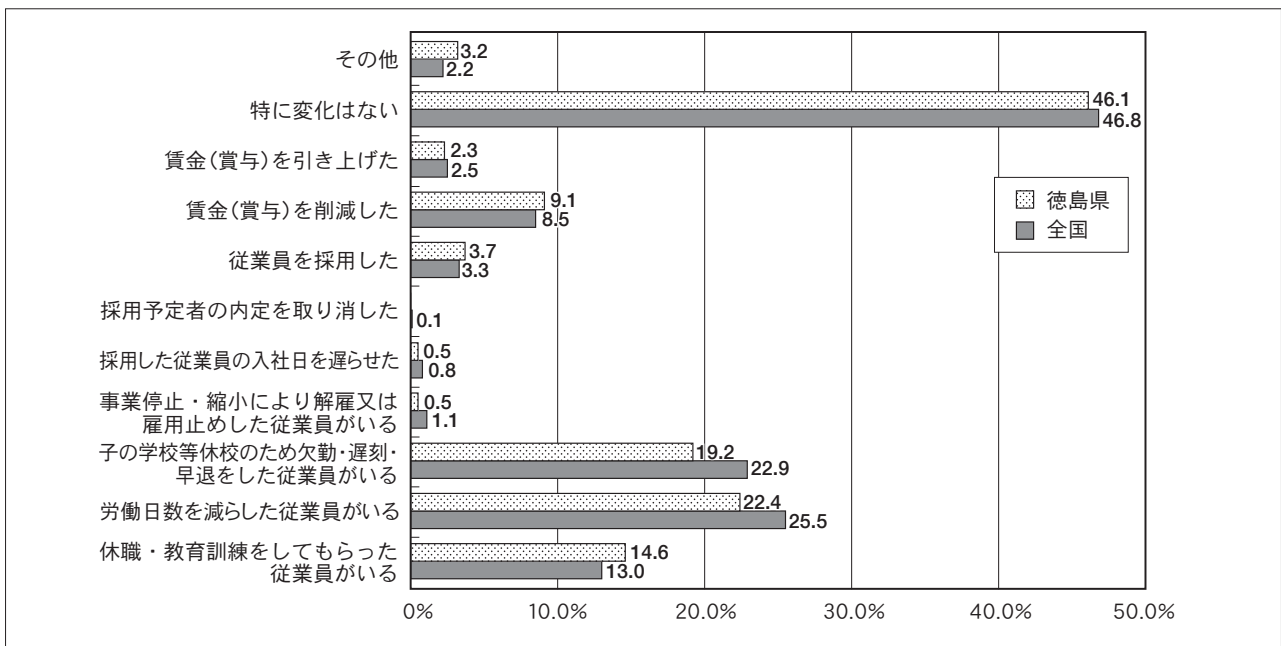
新型コロナウイルス感染拡大による経営への影響については、「売上高の減少」が70.9%と最も多く、次いで、「取引先・顧客からの受注減少」が59.5%、「営業活動等の縮小」が38.6%の順となっている。(複数回答)



<経営への影響>

(2) 雇用環境の変化

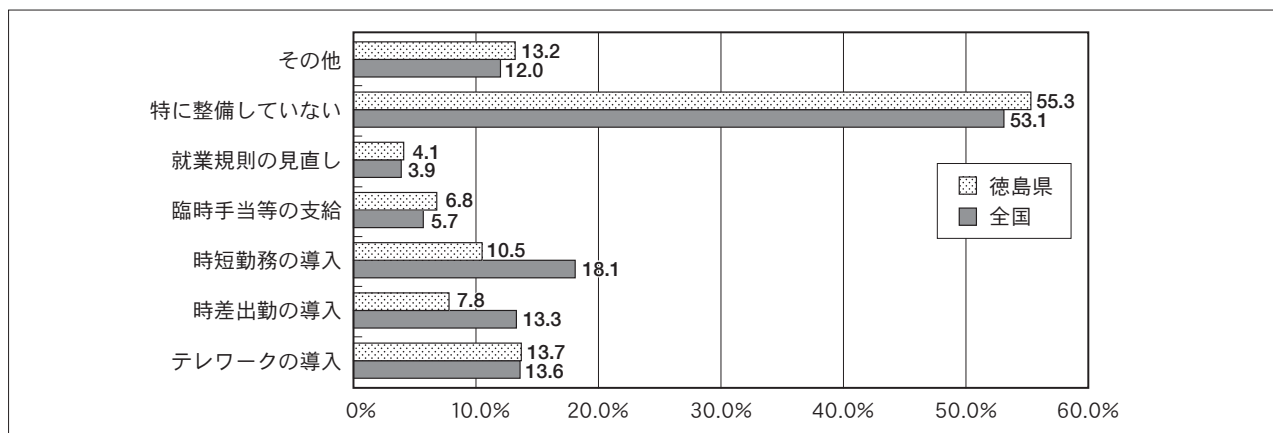
新型コロナウイルス感染拡大による従業員等の雇用環境の変化については、「特に変化はない」が46.1%と最も多く、次いで、「労働日数を減らした従業員がいる」が22.4%、「子の学校等休校のため欠勤・遅刻・早退をした従業員がいる」が19.2%の順となっている。(複数回答)



<雇用環境の変化>

(3) 労働環境の整備

新型コロナウイルス感染拡大への対策として、実施した従業員の労働環境の整備については、「特に整備していない」が55.3%と最も多く、次いで、「テレワークの導入」が13.7%、「その他」が13.2%の順となっている。(複数回答)



＜労働環境の整備＞

(4) 活用した助成金

新型コロナウイルス感染拡大により、従業員の雇用維持等のため活用した助成金については、「活用していない」が47.2%と最も多く、次いで、「雇用調整助成金」が31.5%、「持続化給付金」が30.6%の順となっている。(複数回答)

6. 賃金改定状況

(1) 賃金改定の実施状況

令和2年1月1日から調査時点(7月1日)までの賃金改定状況は、「引き上げた」42.0%(全国平均39.4%)、「7月以降引き上げる予定」8.7%(全国平均7.6%)をあわせて50.7%(全国平均47.0%)となった。徳島県でも10月4日に最低賃金が796円に引き上げられる事が決定したが、昨年より「引き上げた」或いは「引き上げる予定」と回答した事業所は減少した。

逆に、「引き下げた」1.4%(全国平均1.1%)、「7月以降引き下げる予定」の事業所はなかった。(全国平均0.7%) また、「未定」が30.1%(全国平均28.3%)、「今年は実施しない(凍結)」は17.8%(全国平均22.8%)といった回答結果となった。

(2) 賃金改定の内容

(1)において、賃金の引き上げを実施或いは7月以降の引き上げを実施予定としている中小企業に対して賃金の改定内容について調査したところ、最も回答が多かったのは「定期昇給」65.7%(全国平均62.4%)、次いで、「基本給の引き上げ(定期昇給制度のない事業所)」が30.6%(全国平均30.0%)、「諸手当の改定」が15.7%(全国平均12.6%)という結果になった。(複数回答)

また、徳島県内において7月までに賃金改定を行った事業所の賃上げ状況は、全産業で労働者1人当たりの単純平均額は4,196円(平均昇給率1.79%)、加重平均は5,023円(平均昇給率2.08%)となっている。

本会は、多種多様な業種の組合等が会員となっていていただいています。各組合がその特徴を活かし日々活動を続けており、今後の組合活動のご参考になるよう、会員の皆様方の仲間を取材し、紹介していきます。

協同組合 徳島総合流通センター

地域に貢献する総合卸団地 環境の変化に対応する強い組織を目指して



団地全景写真

■ 組合の設立背景と現況

協同組合徳島総合流通センターは、徳島県内の卸売業者が集団化して、経営の近代化・合理化を図るため、昭和51年に設立されました。

そして、組合員主導による立地選定、用地取得、また、国の高度化事業を活用して、昭和59年に組合員35社で団地を竣工させました。

協同組合設立から、40年以上が経過し、現在では38社の組合員企業による異業種卸売団地を形成しています。

当団地は、徳島市北部に位置し、四国横断自動車道の徳島ICにも隣接しており、明石海峡大橋に通じる鳴門ICおよび徳島阿波おどり空港からもアクセスが便利であり立地に恵まれています。



(協)徳島総合流通センター「流通会館」

当組合の綱領には、「我々は、共同連帯意識を基本とし、協同により企業の成長発展を期し、広く地域社会に貢献する」を定めており、時代の要請に応えながら、顧客や地域社会のニーズ

に応える商品・情報・サービスの提供に日々努力しています。

■ 組合員間の情報交流の推進

組合会報誌として徳島総合流通センターニュース「リオデだより」を発行しています。会報の発行は、不定期ですが、近年は年間3～4回発行しており、掲載内容は、組合の事業報告や主要行事の参加者の声を紹介するなど、組合員企業の現状について写真などを用いながら、活発な活動をしている組合員企業を紹介しています。なお、組合員企業の全社員にも、会報を読んでもらえるよう毎号1千部発行しており、事務局に設置するとともに会員に配布して情報の共有化を図っています。

組合ホームページは、昨年度にリニューアルし、流通団地を空撮した写真がスライドで見られるほか、組合会館の大ホールや会議室及び共同倉庫の予約状況が閲覧できるようになりました。また、新規就職者を募るために、組合ホームページから各社の個別のホームページにリンクできるようにしており、組合員から「便利になった」との声が上がっています。

また、新年互礼会、新年会などの開催による組合員間の交流を図るほか、組合員企業の従業員としてだけでなく団地従業員としての意識の醸成を図るための合同入社式の開催、ボウリング大会や親睦納涼祭の開催などにより、従業員間の交流を行っています。



徳島総合流通センターニュース
「リオデだより」

■ 地域社会貢献活動の推進

当組合の綱領に掲げる地域社会への貢献についての代表的な取り組みとしては、「リオデ徳島音楽祭」です。

リオは、ポルトガル語で“河”という意味で、リオデ徳島音楽祭は、徳島の物流と情報の流れの中心になっていくという当組合の願いを込めたネーミングとなっています。

平成3年に徳島の文化の向上に貢献するため、当初は徳島市文化センターで実施していましたが、現在は、徳島文理大学の協力を得て同大学のむらさきホールを使用しています。同ホールは、音響装置も非常に良く、出演者・観客ともに好評で、徳島県になくてはならない音楽祭として定着しています。リオデ徳島音楽祭は、令和元年11月の開催で第29回目を盛況のうちに終えることができました。



リオデ徳島音楽祭

■ BCP 関連事業の推進

当組合では、東日本大震災以降、南海トラフ巨大地震等の災害に備えるため、BCP事業に取り組んできました。

平成24年5月には、「レンタルサーバーを利用した企業データの県外バックアップ転送システム」を構築しました。組合員企業各社のサーバーは、火災や地震そして津波等による災害が発生した時、瞬時に機能を停止し、企業活動に

大きなダメージを与えることになります。そこで、当組合と情報通信会社の間で、レンタルサーバーの契約を交わし、組合員各社のサーバーデータを有線・無線による自動転送ができるようにしています。

平成 25 年 2 月には、「団地内内線を利用した緊急地震予知システム」を導入しました。当システムは、気象庁の地震初期微動波情報から震度の大きさや揺れまでの時間を予測し、警報とともに全社の内線電話機を通じ、自動で地震速報や津波等を知らせるシステムとなっています。

平成 27 年 9 月には、「安否確認メールシステム」を導入しました。同システムは、組合員企業の責任者の安否確認が携帯メールを通じて把握できるとともに、組合員各社は、従業員にも利用できるようになっています。

平成 28 年 9 月には、組合独自の「防災マニュアル（改訂第 2 版）」を作成し、団地内全従業員 800 名と近隣住民 200 世帯に配布しました。

さらに組合員企業の協力を得て、団地内にある徳島大正銀行研修会館宿泊棟屋上に「備蓄水」を用意し、非常時における対応策を講じることで、少しでも利用者の不安を取り除けるようにしました。

緊急地震予知システムや安否確認システムを活用し、定期的に一斉訓練を実施するほか、毎年 10 月に組合員企業及びその従業員、近隣住民の方々と交えて合同緊急避難訓練を実施しています。令和 2 年 10 月 21 日に実施した第 8 回



合同緊急避難訓練

合同緊急避難訓練では、参加者にマスク着用、訓練当日は密にならないよう関係者の指示に従い、新型コロナウイルス感染症対策に配慮して実施しました。

■ 業界の将来を見据えた今後の活動

当組合では、業態や立地など組合を取り巻く環境が大きく変化する中、団地の将来像について検討するため、平成 28 年から若手後継者数名によるビジョン委員会を立ち上げ、意見交換を行っています。

団地完成後 36 年を経過し、建物の老朽化が進んでいる中、交通インフラが格段によくなり、委員会では、建物・設備の現況の調査研究を行い、団地の将来像について検討していくこととしています。

加えて、地域の特性を生かした新規事業にかかる市場調査研究を行い、地域と共存する新事業を開発し、新しい団地をイメージできる再整備ビジョンを策定していくこととしています。

策定するビジョンの進捗状況については、毎月開催している理事会及び定例会（全体会議）において適宜報告していくこととしています。

組合プロフィール

協同組合 徳島総合流通センター

住 所：〒771-0138
徳島市川内町平石流通団地 51 番地

電 話：088-665-4100

F A X：088-665-4658

理事長名：美馬 秀夫

業 種：卸売業、自動車整備業、
運送業、倉庫業、
サービス業、その他



理事長
美馬秀夫 氏

組合員数：38社

設立年月：昭和51年 3 月 1 日



井口鉄工所株式会社

中央会では、平成 24 年度から始まった補正事業「ものづくり補助金」の地域事務局として、ものづくり・商業・サービス分野において独自の事業展開に取り組む事業者を対象に、補助金交付や事業推進支援を行っています。このコーナーでは、本補助金を活用して成果を上げておられる県内中小企業の皆様方を「ものづくりの達人」としてご紹介しています。

第 24 回目は平成 25 年度から 3 回ものづくり事業に取り組まれた『井口鉄工所株式会社』をご紹介します。同社は、新たな設備を導入し、生産工程の集約化を図り、製造能力面や品質面での競争力を強化するとともに、長年培ってきた技術力と加工ノウハウによって、精密部品加工業界における自社の優位性を確立されて来られました。

今回は、井口善裕社長にお話を伺いました。

1 御社は、昭和49年の創業で、平成18年に法人化されています。46年にわたる活動の沿革などについてお聞かせください。

当社の先代である父（井口富夫氏）は、中学校卒業後、集団就職で、大阪の町工場で旋盤工の職人として腕を磨いていました。

その後、父は帰郷することになり、中古の汎用旋盤やボール盤を自宅の納屋に据付け、昭和 47 年、井口鉄工所を創業しました。

創業当初は、孫請または曾孫請で、自動車用部品の加工を行っていましたが、建設機械用部品、各種機械用部品の加工へとシフトして行きました。

平成 11 年 11 月に、父が病気のため他界し、当時 24 歳であった私が、急遽事業承継することになりました。入社して 4、5 年目で、まだ修行中である上に、引継ぎの準備も全くない中で事業承継となり、戸惑いながらの出発となりました。

しかし幸いなことに、父は人付き合いが良く、至る所でネットワークを作っていましたので、その方々に様々なアドバイスを頂くとともに、従業員や取引先の皆様にも助けられ、何とか責務を全うすることができました。今でもその方々とのお付き合いは続いており、懇意にしています。

事業承継後約 5 年を経過して、事業経営も軌道に乗り、新分野への進出による事業拡大を模索しながら日々奮闘している折、取引先の工具商社から、ものづくり補助金事業の情報を教えてもらったのをきっかけに、同事業に取り組む



井口鉄工所(株)・本社工場



井口善裕社長

ことになりました。

まず、経営革新計画を策定し、徳島県の承認を受けました。同計画の策定にあたっては、税理士や金融機関の担当者の支援を受けました。

そして、平成 25 年度ものづくり事業に挑戦し初めて採択されました。国から私自身が考えた事業計画が評価され、認めてもらえたことが、とても嬉しかったのを覚えています。その後、同事業を活用し、設備導入に併せて工場を増床していきました。

2

御社は、ものづくり補助金事業では平成25年度「エネルギー分野参入に向けた、発電装置部品高精度化・工程集約化による生産性の向上」、平成27年度「高硬度・長尺部品の加工プロセス革新による納期・精度面の競争力強化」、そして平成30年度「介護機器用小型部品の生産プロセス改善による納期・精度面の競争力強化」に取り組みられています。導入した設備の現在の状況や得られた効果などについて伺います。

それぞれのものづくり補助金で導入した設備は、いずれも順調に稼働しています。

従来は複数の工作機械で加工を行っていましたが、新たに最先端の複合加工機を導入することにより生産工程の集約化が進み、生産性が向上し納期の短縮が図れています。また、ワンチャッキングの仕様で、より高精度な製品ができるようになりました。

現在、コロナ禍の影響もあり、一部の部品加工の受注は停滞していますが、新たな受注が入るなど、基本的にはいずれの加工機もフル稼働しています。

部品加工は、多品種小ロットが大半ですが、これらの設備の導入により高効率な生産ができています。高精度加工機を使いこなすための加工技術も社内で定着してきました。これまで蓄積した加工ノウハウと高精度加工機を融合させることで、より難しい加工にも挑戦できています。

ものづくり補助金を活用することは、設備資金を国が一部補助してくれる経済的メリットが大きいです。それ以上に、私自身が事業計画を策定することで、事業の中身が整理でき、事業計画が明確になり、目標をもって設備投資を行うことができたことは大きな財産となりました。また、改めて自社の強みを認識するきっかけにもなりました。最新の機械を続けて導入することで社員のモチベーションアップにも繋がっています。

また、当社の知名度が上がったことも感じますし、行政庁や中央会をはじめとする支援機関との強いパイプもでき、金融機



複合加工機（平成30年度導入）

関からの評価も向上しました。

3

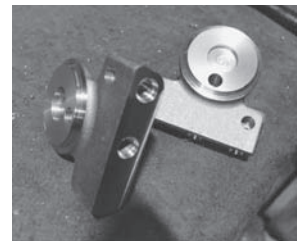
御社は特定のグループに属さず、何にでもトライできる強みをお持ちのようですが、営業活動はどのようにされているのでしょうか。

当社が他社から評価されている点は、多品種小ロットの難削材加工や超短納期の厳しい取引条件でも臨機応変に対応できる技術力が評価されていると認識しています。10ミクロン単位（100分の1ミリ）の高精度製品を作ることは、県内同業者でもハードルの高いレベルにありますが、当社は、ものづくり補助金などで導入した高精度加工機を積極的に活用する方法で、加工技術の向上を実現しました。

私は現在44歳で、同じ分野の製造業の社長の中では比較的若い方です。従業員もまた、40代以下が大半の若い集団です。モチベーションが高く、熟練と若手職人による「馬力が自慢のものづくり技術集団」として、常に新しい分野の仕事にチャレンジする意欲は旺盛です。加えて、お客様のあらゆるニーズにも柔軟に対応する臨機応変さと、小回りの良さも当社の強みです。

当社の営業活動は、コロナ感染拡大の影響で変わりましたが、これまでは特段行わず、紹介が基本でした。普段お付き合いのある工具商社、材料屋、外注先を通じて、仕事を受注することがほとんどでした。

見積依頼があった際の対応としては、スピーディーに、なるべく断らない、まずはやってみるという姿勢を大切にしています。



切削加工製品
（ワンチャッキングでの加工例）

4

機械・工作物の搬入、人の採用などで立地条件としては、比較的厳しい環境と考えられますが、当地の良さをお願いします。

徳島県と香川県の県境という地の利を生かして、香川県の仕事も沢山受注しています。当地から30分圏内で香川や徳島の至る所に車で出向くことができますので、便利な場所と思います。また、工場周辺が田畑であるため、騒音などを気にしなくて良い面がメリットであると考えており、元々生まれ育った地でもあるので、愛着が深いです。

近年は、残念ながら、周辺（県内および近隣県）の個人事業主、小規模の製造業者の経営者の高齢化が進み、廃業される声をよく聞きます。実際にそのような事業者から仕事を引き継ぐことも少なくないので、地域においての事業を承継する責任を担っていると感じています。



井口鉄工所(株)工場内設備

5 世界中を席巻している新型コロナウイルス感染症の流行が御社に及ぼした影響、あるいは及ぼしている影響についてお聞かせください。

コロナ禍の影響で、建設機械などの減産により、既存の受注先については、売上が減少傾向にあります。しかし、私自身が落ち込んでいても仕方がないので、出来る範囲での営業活動を積極的に行うことで、新しい仕事の受注に繋がっています。

このような状況下、難しい加工を依頼されることも多いですが、外注協力会社を探しているうちに、親しくなり同社から仕事を受注するようになるなど、ネットワーク形成の拡大の好機となっています。

また、社員に対しては、仕事の減少により時間に余裕ができた場合、普段できないこと、加工技術の研究などに取り組むように指導しています。

加えて、営業活動の強化を図るため、2年前に、自社のホームページや会社案内を整備しました。現在、ホームページを通じた引き合いが、県外も含め、月5件程度ある状況になっています。

以前は、新規訪問先への営業活動の際には、渡せるものが名刺しかなかったのですが、会社案内の作成により、会社の紹介がしやすくなりました。製造業においても、営業活動を行う上で、会社案内のような営業資料やホームページの必要性を実感しました。

6 御社の特徴は、旋削加工技術にあるようですが、今後の設備や技術の活用などについてお聞かせください。

私は、本当に周りの方々のおかげで、ここまでやってこられたと感じています。

これからは、補助金で導入した機械を有効に活用し、より高品質な製品を短納期で作れる体制をさらに充実し、他社が断るような仕事でも積極的に取り組んでいけたら良いと思っています。

当社のコア技術である長尺加工技術を活かし、高精度な工作機械の剛性と複合的機能を融合することにより、難削材や難易度の高い加工部品でも効率よく生産していくことを目標にしています。納期や精度でさらに強化できれば、お客様が満足する日数や精度にも余裕をもって対応できると考えています。



井口社長と社長を支える従業員

【取材を通して】

井口社長は、事業承継後、先代社長が長年培ってきた仲間のネットワークを活かすとともに、技術力と加工ノウハウの蓄積により、従来の下請体質の脱却を目指した新分野進出に向けた機械の導入及び工場の増床を計画的に実施されました。特に、高精度の加工技術の確立と生産工程の集約化による生産性の向上を実現されたお話を伺い、ものづくりに対する強い情熱に感銘を受けました。

当日は、井口社長が工場内の導入機械、熟練職人や若手職人が加工した製品などを説明して頂き、様々な加工ニーズに対応する高い技術力と豊かな創造力を兼ね備えた「技術者集団」であることを実感しました。

企業の概要

○会社名	井口鉄工所株式会社
○所在地	美馬市脇町字西俣名1287番地
○電話	0883-53-2822
○FAX	0883-53-0023
○E-mail	ppmd@iguchi-iron-works.com
○HP	http://iguchi-iron-works.com
○代表者	代表取締役 井口 善裕
○設立年月日	平成18年7月7日
○従業員数	8名
○業種	金属製品製造業



組合ホットニュース

通学路の街路灯清掃点検ボランティアを実施 ～鴨島電気工事協同組合～

鴨島電気工事協同組合は、令和2年8月29日、地元の小・中・高等学校8校周辺の通学路に設置されている街路灯の清掃点検ボランティアを行いました。

組合員34名が、高所作業車などを使い214基の街路灯を清掃、点検した結果、18箇所器具や自動点滅器などの不良が見つかり、市役所の担当課へ改修を依頼しました。

また、周辺住民に全日電工連作成のリーフレットとウエットティッシュを配布し、電気の安全使用や節電などを呼びかけました。

この活動は、8月の「電気使用安全月間」行事の一環として平成19年から継続して行っており、地元新聞や自治体広報誌にも取り上げられ、電気工事業界の認知度の向上とイメージアップに貢献しています。



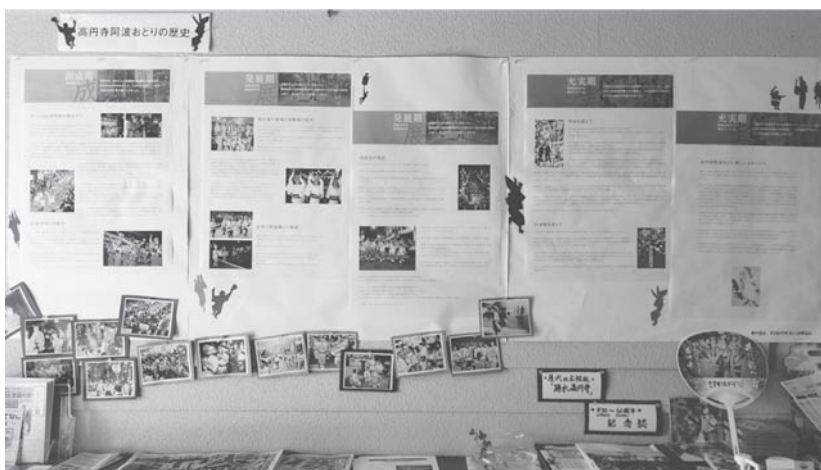
東京高円寺阿波おどりの歴史展を開催 ～徳島市両国本町商店街振興組合～

徳島市両国本町商店街振興組合は、令和2年9月11日から同商店街の喫茶店「プチレスト・ウッドアイビス」において東京高円寺阿波おどりの歴史展を開催しています。

同商店街は、令和元年8月13日、高円寺パル商店街振興組合と友好商店街を締結し、今後、友好を深めていくことを考えていましたが、コロナ禍になりNPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会専務理事・事務局長の富澤武幸氏に、東京高円寺阿波おどりに関する資料の提供を受け、歴史展を開催することになりました。

本歴史展では、高円寺パル商店街が昭和32年に街おこしの起爆剤のため阿波踊りを導入し現在まで地域と共に発展してきたことを記載したポスター、貴重なスナップ写真、歴代の広報紙「踊れ高円寺」、昭和61年～平成29年の間に発行された「記念誌」などを展示しています。徳島の阿波おどりと深いつながり、往年のトップスター小野正巳氏、姓億政明氏の懐かしい写真もあり、興味深い内容となっています。

両商店街は、Withコロナの中、コラボ企画やイベントを少しずつ進めて行きたいと考えています。是非、ご覧下さい。



第12回児童木工工作「木とふれあうコンクール」審査会を開催 ～徳島県木材買方協同組合～

徳島県木材買方協同組合は、令和2年9月20日(日)徳島市の徳島県木材センター協同組合において、第12回児童木工工作「木とふれあうコンクール」審査会を開催しました。

このコンクールは、木の温かさ、優しさは勿論のこと、木材が地球温暖化対策の中心的位置を占める二酸化炭素削減問題に最も寄与する再生可能な唯一の資源であることの理解を深めてもらうため開催しています。

木工作品は、小学生を対象に、夏休みを通して募集され、新型コロナウイルス感染症の影響で例年に比べ参加小学校が減少しましたが、県内11校の小学校が参加し、30点の応募がありました。審査が行われた結果、徳島県知事賞等12点の優秀作品、努力賞の18点が決定されました。

なお、毎年本コンクールには、徳島県中小企業団体中央会会長賞を贈呈しており、下記の作品が受賞しました。

石井小学校 6 学年

高木 愛心(たかぎ あみ)さん

「都道府県のみならず夢のオリンピック」写真上内町小学校 6 学年

中川 智陽(なかがわ さとや)さん

「たこ」写真下



本会会長賞受賞作品
「都道府県のみならず夢のオリンピック」



本会会長賞受賞作品「たこ」

オンライン展示会に向けたセミナーを開催 ～クリエイティブ徳島協同組合～

クリエイティブ徳島協同組合は、令和2年10月7日(水)徳島市産業支援交流センターにおいて、オンライン展示会に向けたセミナーを開催しました。

当組合では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンライン展示会を組合ホームページ上に開設し、ネットを活用してものづくりや商品の展示などを行うこととしています。

同展示会に向けたセミナーに、テレワークセンター徳島センター長・IT専門家の清瀬由香氏と徳島県移住コンシェルジュ・ライターの飛田久美子氏を招聘し、ネット配信を使った「オンライン展示会開催に向けて」と題して、情報が氾濫している中で、効率的に情報を発信する方法などについて説明を受け、最後に参加者全員のSNSやホームページなどを実際に見て、良い点の紹介や問題点に対するアドバイスを受けました。

今後、組合では、様々な情報発信を行い、組合及び組合員企業の発展につなげていくこととしています。



第1回四国クレーン塾を開催 ～徳島県クレーン協同組合～

徳島県クレーン協同組合は、令和2年10月19日(月)～11月11日(水)、中央技能講習所株式会社他において、「第1回四国クレーン塾」を開講しました。

四国クレーン塾は、クレーンオペレーター不足解消に向けて、受講日数21日間で、大型特殊免許、移動式クレーン免許(5トン以上)、玉掛け技能の資格取得を目指し、四国で初めて開講しました。

四国初の塾生は、9月にハローワーク等を通じて募集した中から選ばれた現在無職で業界への求職希望の強い14人で、資格取得後は、組合等の支援により、求人企業とのマッチングを図り、全員がクレーンオペレーター職となることを目標としています。



令和2年度率先避難企業訓練を実施 ～徳島県鉄鋼協同組合～

徳島県鉄鋼協同組合は、令和2年11月5日(木)、徳島県小松島市金磯町の鉄鋼団地において、巨大地震などが起こった際、津波からの避難を周囲に呼びかけながら先頭に立って避難する「令和2年度率先避難企業訓練」を実施しました。

第8回目の開催となる今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて、感染防止の観点から、3密の回避、長時間の滞在を控えるため、従来実施していた避難所屋上での総括集会は中止し、参加者の渋滞を避けるよう避難ルートを一方通行に変更し、当組合の組合員及び従業員、組合青年部ら約130名が参加しました。

地震発生後の30分後に高さ5.5mの津波が押し寄せるという想定で訓練が始まると、先導役のメガホンを持った参加者が「津波が来るぞ、早く避難して下さい。」と近隣事業所に大声で呼びかけながら全員がマスクを着け、避難場所まで徒歩で移動しました。

当訓練の実施により、団地全体としての防災意識が高まり、参加者にとって大変有意義な訓練となりました。



WITH コロナ安全安心観光提案旅行业成果報告会を開催 ～協同組合徳島県旅行业協会～

令和2年10月29日(木)阿波観光ホテルにおいて「WITH コロナ安全安心観光提案旅行业実地研修成果報告会」が開催されました。

現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響により団体旅行が激減しており、旅行、観光、宿泊業界が非常に厳しい状況にあります。この厳しい現状を打破するために、徳島県中小企業団体中央会と協同組合徳島県旅行业協会が連携し、安全安心な旅行、観光、宿泊のあり方を模索するために、様々な研修を実施しました。

令和2年8月にはバス、旅行、宿泊、外食など各関係業界の全国団体がまとめたガイドラインについて学ぶ「新型コロナウイルス感染症対策、安全安心な旅座学研修会」を開催し、9月には県南と県西の観光地を観光バスで巡る1泊2日の「安全安心な旅宿泊体験モデルツアー」を2回開催しました。これらの研修の検証結果を踏まえ、徳島県独自の新型コロナウイルス対応ガイドラインの策定に向けて検討してきました。

その結果、リーフレット「あわ徳島新しい旅の歌（感染予防を目指して）」、旅行参加者に配布するシール「安全安心な旅・すだちくんシール」を作成し、組合員に対して配布することになりました。

成果報告会ではこれまでの研修の成果について情報共有を行い、また、阿波おどりが会館前で観光バスの車内換気の実験を行いました。換気実験では大型観光バス内に煙を充満させ、約5分間で換気が完了する状況を参加者の方々が確認しました。

今後も引き続き、地元旅行者や県内外の旅行関係業者の方々に対して、今回の成果の共有を図り、様々な形で支援することにより、「WITH コロナ安全安心な旅」の実現に尽力していきます。



安全安心な旅 座学研修会



安全安心な旅・すだちくんシール



あわ徳島 新しい旅の歌

～感染予防を目指して～

～新しいエチケット～ マスクして話をしよう 手洗いと手指消毒を 忘れずに体調チェック 気持ちいい窓開け換気 距離保ち三密回避 守るほど笑顔続くよ	～移動中～ 前向いて控えめに話そう 乗り降りも間を開けよう 戻ったら手指消毒を 同じ席座って車窓 自らゴミ持ち帰り 飛び鳥は後を濁さず
～観光地にて～ 入場時検温消毒 慌てずに距離とり見聞 混まないよう余裕をもって 座るとき間を空けて お土産は目で見て決めて 満足し さあ次行こう	～お宿にて～ 到着し早めに部屋に エシペーター間隔とって 時々窓開け換気 戻ったら手洗いしよう フタ閉めて水を流し 安心してゆっくり眠る
～食 事～ お酌より手酌で飲もう 控えめに喋って食事 その場で食べ移動控えて 食べ終わればマスクを着けて 美味しい料理と美味しいお酒 舌づつみ旅の醍醐味	～入 浴～ ゆったりと間を見て温泉 混み合うなら慌てず待とう バスタオルは部屋から運び あいだ空けロッカー使い 履物も自分のものを ボカボカだ心身ともに

新しい旅を皆様とともに
徳島県旅行业協会

リーフレット「あわ徳島 新しい旅の歌（感染予防を目指して）」

令和2年10月

情報連絡員レポート(前年同月比)



この報告結果は、徳島県下の中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員49名に委嘱している中小企業団体情報連絡員による報告を抜粋掲載しております。

【全体の景況】

建設業関連では需要が堅調であり、自動車販売整備業においても今年度初の前年度比プラスとなり、需要が好調であった様子。また新型コロナウイルス各種支援策の効果もあり、受注数の増加や人出の増加に伴い、個人消費の上向きなど明るい報告も多くの業種から寄せられた。

一方、依然として続く原材料高や労働力問題に加えて、新型コロナウイルスの影響により厳しい状況が続いており、先行きを不安視する声も多くの業種から寄せられた。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

【製造業】

<食料品>

【味噌】新型コロナウイルス感染の再拡大で外食需要が落ち込み、米の需給が緩む見通しが一段と強まった。主要原材料の価格に影響が出てくる。

【漬物】漬物製造業では前月と変わらず取引先により好不況が顕著である。特に土産物、飲食店等を取引先としている業者は売り上げの落ち込みが激しい。操業時間の短縮も行われている。

<繊維・同製品>

【縫製】製造業の景気悪化が徐々に現れ、今後の景気対策が見えない現状が続いている。景気冷え込みの長期化に備え、引き続き企業の体力堅めに注力している。

【縫製】新型コロナウイルス感染症の景気への影響。

<木材・木製品>

【木材】徳島県は感染症にかかった人の数こそ他府県と比較すると少ないが、経済的な影響は他府県以上のような。何せ一日も早くワクチンや抗体治療が確立されるよう願うだけだ。今後当分の間、不景気分が抜けない。

【製材】住宅の着工数が低迷しており、全体的に厳しい状況が続いている。一方で、林野庁がコロナ対策で実施している非住宅向けの補助事業により、一時的に好転している事業所も見られる。

【木材】原木丸太の入荷回復、製材所からの注文も増えた。原木丸太の入荷をもう少し期待したい。

<印刷>

【印刷】10月に入りイベント関係は依然低調なものの新聞折り込みのチラシ関係は少し戻ってきた模様。

【印刷】コロナ禍の中、最悪であった月に比べると良くなってきたが、前年同月に比べると売上げ、収益とも良くない状況が続いている。

<窯業・土石製品>

【生コン】対前年同月比横這いであった。要因としては、出荷数量が官民工事とも当初の計画通り出荷が進み新規工事発注も例年並みを維持している。

【生コン】10月は昨年同月と比較して約13%増加。新規特需工事が本格的に始動し、出荷量の上乗せが期待できる状況になってきた。

<鉄鋼・金属>

【鉄鋼】業況の大きな動きはなく、設備操業度などは概ね横ばい状況で推移しているが、一部では弱い動きも見受けられるところである。

【ステンレス】国内状況は、大手を中心に徐々に回復傾向にあるが様子見の状況である。海外での営業活動は、隔離措置の緩和により徐々に再開しつつあるが、コロナ禍以前と同様までの回復は見通しが立たない状況にある。

<一般機器>

【機械金属】業況の一部に持ち直しの動きが見られている一方、営業活動の停滞等により売上高や引合いなどに引き続き厳しい状況も見られ、景況感の悪化が懸念される。

【非製造業】

<卸売業>

【食糧卸】業務用の回復が見込めず、家庭用スーパー特売等での対応しか手段が無い状況。

<小売業>

【ショッピングセンター】10月の売上高の前年対比は全店計98.5%(既存店102.1%)、客数93.1%(既存店96.5%)だった。営業店舗が8店舗も減ったのに98.5%は上出来だと思いが、それは核店舗およびナショナル・チェーン等の売上構成の高い店舗が100%を超えていることに因るものである。

【電気機器】コロナ禍で合展等、積極的な販売促進策は控えているので、全般的に厳しい状態である。そんな状況のなかテレビの買換需要が増えてきている。

【量小売業】好天に恵まれ、表替中心に一般の仕事があった。営業用(ホテル、飲食店関係)の仕事はたいへん少ない。

【機械器具】来年に向けての商材確保に困惑しそうな流れあり。生産遅延の情報が入ってこない。機会損失を懸念している。

【各種商品小売業】Go To イートの食事券を買い求める人が増えて人通りは増えてきたが、売上に結びつけるのは難しい。

<商店街>

【徳島市】飲食店では人手が戻りつつあるが、前年同月に比べるとかなり少ないようだ。

【徳島市】昨年10月が増税で売上げが落ち込んだため、売上高自体は昨対はほぼ同じぐらいではあるが、依然としてコロナの影響は大きく人の出が悪い。

【鳴門市】先月から大きな変化はなく、商店街のイベントは全て中止になり、売上げは厳しいようだ。家具業界は6月以降、前年よりいい店が多いようだ。

【阿南市】親月会もハロウィンイベントも中止。

<サービス業>

【土木建築業】河川は改修事業費が前年度比、約85%になり、業務量も去年より減少。道路は新直轄費が前年度比85%と減になったが、一般道の事業費が新直轄の減額分増加。交通対策課は無電柱化事業が去年より3倍になり、インフラの調整が大変だ。道路管理課も去年に比べ、1.25倍の事業費(橋梁補修・耐震・補強)が多く発注され、忙しい。

【自動車整備】登録車、軽自動車ともに今年度初めて前年度比がプラスとなった。二輪車だけで見ると、この半年間で大きな減少はなく、昨年度とほぼ横ばいを保っている。

【旅行業】Go To キャンペーンなどで個人旅行は増加しているが団体旅行は相変わらず少なく、あまり良い状況ではない。

【広告業】イベント関係は動いていないので未だ低迷。公共工事や商業施設の受注は元に戻りつつある。

【ビル管理】新型コロナウイルス感染症の拡大回避の影響が顕著なホテル分野のメンテナンス業務においては、経営や人材確保、業務遂行方法などに影響があり、事業の縮小による減収や従業員の休業補償などが重い課題となっている。

<建設業>

【建設業】公共工事は地域的な格差があるが、全体で前年に比較して増加している。

【板金工事業】新築及びリフォームの発注も回復してきて全体に忙しくなってきた。

【電気工事業】新設住宅口数は174件であり、対前年比59.7%と減少した。

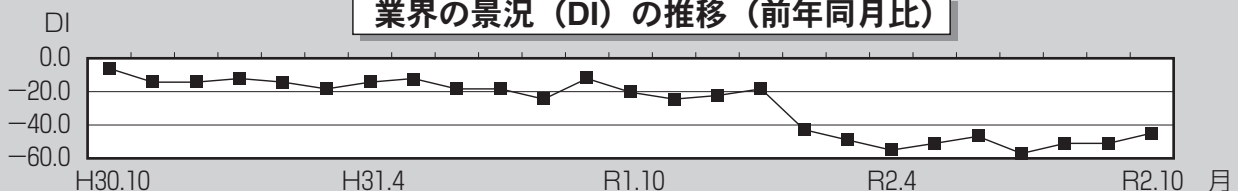
【鉄骨・鉄筋工事業】若干操業度が低下している工場があるものの、今月も前月とほぼ変わらない。

<運輸業>

【貨物運送業】取扱品目により異なるが、全般的には先月より低調に推移している。また軽油単価は2ヵ月連続の値下りで、多少の利益確保に寄与している。

【貨物運送業】新型コロナウイルスの影響は大きく、徐々に改善傾向の荷はあるものの、元のように回復するには時間を要するとの声が多い。長距離便の帰り荷の回復には、まだまだ先が見えない厳しい状況が続いている。

業界の景況 (DI) の推移 (前年同月比)



※ DI 値とは、各景況項目について「増加」(又は「好転」)業種割合から「減少」(又は「悪化」)業種割合を差し引いた値



青年部コーナー



青年部活動トピックス



◇徳島県商工 3 団体青年部 第 1 回事業打合せ会議◇

令和 2 年 11 月 2 日(月)、徳島県商工会連合会会議室に於いて「令和 2 年度 徳島県商工 3 団体青年部 第 1 回事業打合せ会議」が開催され、以下の提出議案を審議し、原案通り承認・決定されました。

第 1 号議案 広告付防災標識看板協定書について

第 2 号議案 令和 2 年度徳島県商工 3 団体青年部「次世代プロジェクト」会議事業について

第 3 号議案 その他



事業打合せ会議の様子

◇徳島県商工 3 団体青年部 広告付防災標識看板協定書に関する調印式◇

令和 2 年 12 月 10 日(木)、徳島経済産業会館 3 階会議室に於いて「広告付防災標識看板に関する調印式」が開催されました。徳島県商工 3 団体青年部が取り組んできた「率先避難企業」の取組を会員企業に広く周知することや防災意識の向上を図るため広告付防災標識看板の設置普及することを再確認し、徳島県商工会青年部連合会、徳島県商工会議所青年部連合会、徳島県中小企業青年中央会の各団体青年部の会長が「広告付防災標識看板に関する協定書」に調印しました。



調印式の様子

★今後のスケジュール★

- リーダー研修会 (令和 3 年 1 月 27 日 徳島県)
- 徳島県商工 3 団体青年部 四国トップ会議 (令和 3 年 2 月中旬 香川県)
- 四国ブロック中小企業青年中央会 会長会議 (令和 3 年 2 月下旬 徳島県)
- 令和 2 年度組合青年部全国講習会 (令和 3 年 2 月 26 日 群馬県)



女性部コーナー



女性部活動トピックス



◇とくしまレディース中央会「企業視察及び交流会」を開催◇

令和2年11月19日(木)に、富士ファニチア株式会社と徳島県立防災センターの視察及び交流会を開催しました。中本ユミ子会長をはじめ18名の参加のもと、午前中は板野町にある富士ファニチア株式会社を訪問し、工場・事務所を見学させて頂きました。同社社長・副社長から生産性向上に繋げるために工夫した点や苦勞した点など様々な視点によりお話を伺うことができました。同社が10年前から導入している「トヨタ生産方式に基づく改善活動」により、従業員にとって働きやすい環境を実現されていることを目の当たりにし、先進的かつ効率的な取組みに参加者一同感銘を受けました。昼食を兼ねた会員間の交流会では、会員同士の親睦が深まり、有意義な時間となりました。



富士ファニチア株式会社 企業概要説明



各生産工程の現場視察



事務所内の現場視察



交流会（みちよ亭にて昼食）

午後からは北島町にある徳島県立防災センターを訪問し、「防災ガイダンス」で様々な災害事例や災害に対する備えの大切さを映像で学びました。その後の地震体験、消火体験、煙体験、風速体験などをつうじて、日頃から災害の備えをする重要性を実感しました。



防災ガイダンスで
災害・防災について学ぶ



地震体験
(リアルな地震の揺れを体験)



消火訓練
(消火器を使用した体験)

★今後のスケジュール★

- 研修会及び新年交流会（令和3年2月上旬 徳島市）
- 理事会（令和3年3月上旬 中央会会議室）



中央会トピックス

徳島県新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に関する条例に基づく取組みの促進について要望

徳島県中小企業団体中央会、徳島県商工会議所連合会、徳島県商工会連合会の経済3団体は、新型コロナウイルスの感染拡大で社会経済への影響が深刻化する中、令和2年10月8日(木)、徳島県庁を訪問し、飯泉嘉門全国知事会会長・徳島県知事に対して、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に関する条例に基づく取組みの促進についての要望書を提出しました。

要望書では、①徳島県新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に関する条例が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止とともに、人を思いやる「安全でやさしい」徳島づくりを促進するものとなるよう、十分周知を図り、その浸透と定着に「挙県一致」で取り組むこと、②社会経済活動を引き上げていく上で、顧客や従業員を感染症から守ることが不可欠なことから、「WITH・コロナ『新生活様式』導入応援助成金」による集中的かつ切れ目のない支援を行うことの2点を要望しています。

本会では、今後も引き続き、会員の皆様の意見や要望の実現に向け、国・徳島県などに対し、他の経済団体などと連携しながら働きかけていくこととしています。



経済3団体代表者による要望

徳島県新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に関する条例
に基づく取組みの促進について（要望）

新型コロナウイルス感染症による地域経済への影響は長期化しており、秋冬の季節性インフルエンザの流行期を迎えるにあたり、依然、予断を許さない状況が続いております。このような中、県におかれては、昨日7日「徳島県新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に関する条例」を制定されました。

条例では、「社会経済活動の引上げ」との両立を図りながら、感染拡大を防止するため、「県の責務」並びに「県民及び事業者の役割」が明らかにされたところであり、私ども経済団体においても「三密の回避」など基本的な対策はもちろん、会員企業に対する「感染拡大予防ガイドライン」の遵守や「とくしまコロナお知らせシステム」への登録の徹底など、県とともに、その浸透と定着に積極的に取り組んで参る所存であります。

こうした中、条例に明記された「ガイドライン」に沿った「新しい生活様式」の導入を、助成率10分の10で支援する「WITH・コロナ『新生活様式』導入応援助成金」は、県内中小・小規模事業者の「大きな支え」として、既に4千件を超える事業者が「新しい生活様式」の実践へと繋げており、大変心強く感謝いたしております。

私どもも、持てる機能を総動員し、さらに事業者への支援に最大限取り組んでいく所存であります。については、この条例に基づく取組みとして、次の2点について要望いたします。

- 一 この条例が新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止とともに、人を思いやる「安全でやさしい」徳島づくりを促進するものとなるよう、十分周知を図り、その浸透と定着に「挙県一致」で取り組むこと
- 一 社会経済活動を引き上げていく上で、顧客や従業員を感染症から守ることが不可欠なことから、「WITH・コロナ『新生活様式』導入応援助成金」による集中的かつ切れ目のない支援を行うこと

令和2年10月8日

全国知事会会長
徳島県知事 飯泉 嘉門 殿

徳島県商工会議所連合会
会長 寺内 カツヲ

徳島県商工会連合会
会長 岡本 富雄

徳島県中小企業団体中央会
会長 市川 徹

徳島県小規模事業者
会連合会
会長 小澤 隆夫

経済3団体代表者が提出した要望書

第72回中小企業団体全国大会（茨城県）を開催 ～つながる ひろがる 連携の架け橋～スクラム強く 団結前進～

令和2年10月22日(木)、茨城県水戸市「ザ・ヒロサワ・シティ会館」において、第72回中小企業団体全国大会（主催：全国中央会・茨城県中央会）が盛大に開催されました。

梶山弘志・経済産業大臣等の臨席の下、全国の中小企業団体の代表者約400名、うち本県から3名が参加して、「中小企業・小規模事業者等の生産性向上・経営強靱化支援等の拡充」、「中小企業・小規模事業者の実態を踏まえた労働・雇用・社会保険料対策の推進」、「中小企業・小規模事業者の積極的な事業活動を支える環境整備」など21項目が決議されました。

これと併せて、本大会では、優良組合（32組合）、組合功労者（74名）、中央会優秀専従者（20名）の表彰が執り行われました。今回、当県からは優良組合として富士製紙企業組合、組合功労者として徳島県木竹工業協同組合連合会 会長 布川 徹氏が表彰の栄誉に輝かれました。



第72回中小企業団体全国大会

◆ 優良組合表彰 ◆

富士製紙企業組合



理事長：藤森 洋一氏
昭和27年1月23日設立
主な共同事業：和紙の製造、加工及び販売

「アワガミファクトリー」は、1300年の歴史を持つ阿波和紙のブランド総称で、ブランドの母体となる組織として設立される。なお和紙の伝統文化を守り継承するだけでなく、“新しい素材の作り手”として、様々な技法の開発・素材の研究活動を行っている。また顧客の声に耳を傾け、現在の生活空間へ、そして次代へと生かしきる和紙文化の新しい発信拠点として組合活動に邁進している。

◆ 組合功労者表彰 ◆

徳島県木竹工業協同組合連合会



会長 布川 徹氏

木材・木製品の製造・販売を行う組合が設立した業界団体の長として各種活動に邁進する。活動は多岐にわたり、地場産業である徳島家具の魅力を各方面に発信するため、①「AWA」ブランドの新商品開発事業、②販路開拓事業、③公共事業の受注促進事業、④後継者育成、⑤PL・表示関連事業など、会長職として業界の将来を見据えた活動を積極果敢に展開され、業界団体の人望も厚い。

なお、次期全国大会は、令和3年11月25日(木)、神奈川県において開催することが決定し、大会旗が全国中央会の森 洋会長から神奈川県中央会の坂倉徹副会長へ継承され、坂倉副会長が次期開催地会長挨拶を行いました。その後、閉会となりました。



次期開催地である
神奈川県中央会坂倉徹副会長に大会旗を継承

第72回中小企業団体全国大会決議【重点事項】		約3万の中小企業組合等 約234万の組合等所属中小企業者 全国中小企業団体中央会
背景・目的 多発する自然災害、国内外でのマイナス要因が強まる中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、中小企業・小規模事業者の経営は未曾有の難局に直面。この難局を乗り越えるためには、協同して経営資源を補完・補強し合うことが効果的であることから、国等からの迅速かつ手厚い支援策が必要。ウイルスコロナの時代を共に切り拓き、共に発展することを旨とする上、組合等連携組織とそれを支える中小企業団体中央会の基盤強化が重要。国等は、中小企業・小規模事業者の難局からの脱却、その先の持続的な成長と豊かな地域経済社会の実現に向けて、本決議事項の実現に強く取り組まねばならない。		
I. 中小企業・小規模事業者等の生産性向上・経営強化支援等の拡充		
1. 新型コロナウイルス感染症及び多発する災害からの復興支援と中小企業強靱化・事業継続力強化への強力な推進 (1) 特種化給付金等の追加実施や新たな給付制度の創設・拡充 (2) 専門的・科学的根拠に基づく情報提供、指示・ロードマップの提示 (3) ウィズコロナ下での産業政策ビジョンの作成と業種別施策の実施 (4) 組合・企業間連携を通じたDXをはじめとするデジタル化対策の実施 (5) 組合・中央会のデジタル・バックオフィス機能の保有・強化	2. 生産性向上の実現支援の加速化と新たな展開対応への支援強化 デジタル化投資関連支援策のハード・ソフト両面の強化 (1) デジタル化インフラの整備に向けたハード面の支援強化 (2) デジタル化の推進状況に合わせたソフト面の支援強化 (3) 組合を通じたデジタル化支援・中央会会員の支援スキルの強化	3. 次世代への円滑な事業承継・後継者育成に向けた対策の強化 (1) 第三者承継支援の拡充、事業引継ぎ支援センターの機能強化 (2) 組合を基盤とした事業承継支援の強化のための予算の措置
II. 中小企業・小規模事業者の実態を踏まえた労働・雇用・社会保険料対策の推進		
(1) 雇用調整助成金等に関連する助成措置の新型コロナウイルス感染症状況に応じた拡充、延長、変化する支給の迅速化 (2) 雇用保険料率の見直しと減額、国庫負担4分の1への復帰、二事業の事業員労務の負担・大綱の見直し (3) 中小企業の経営実態に配慮した働き方改革の推進、特に新しい働き方やAI・IoTの活用等に対する支援等の強化 (4) 中小企業に対する人材確保支援等の強化、組合を活用した教育機関の活動・新しい分野の研修支援の強化		
III. 中小企業・小規模事業者の積極的な事業活動を支える環境整備		
1. 中小企業金融施策の拡充 (1) 新型コロナウイルスに対する金融支援機能の維持・拡充、及び支援窓口の強化 (2) 貸付性寄附ローンの取組み強化、国の直接融資の資金調達方法の拡充 (3) 被災事業者に対する新型コロナウイルスの影響を受けた場合の多業態融資制度の創設	2. 中小企業・組合税制の拡充 (1) 新型コロナウイルス対策を受けた中小企業に対する措置の延長・拡充、数値税制の適用期間の延長、新たな税制措置の創設 (2) 中小法人の法人税の軽減税率の引下げ、適用所得金額の廃止、恒久化	3. 中小製造業等の持続的発展の推進 (1) 新型コロナウイルス対策として新たに措置されたもの及び補助金(特別特例)の継続・拡大 (2) 下請取引の適正化、下請法の適正かつ迅速な運用 ① サプライチェーン対策補助金の継続、中小企業への支援策の充実 ② 下請代金支払遅延等防止法等の運用強化・適正かつ迅速な対応 ③ 業種別下請ガイドラインと自主行動計画の策定拡充・強力な推進
4. エネルギー・環境対応への支援の拡充 (1) 電力コストの負担軽減に必要な対策の実施 (2) エネルギー使用合理化等事業費支援事業補助金の拡充・強化	5. 卸売・小売業・まちづくりの推進、中心市街地活性化に対する支援の拡充 (1) コロナ禍対策としての接客イベント、プロモーション等の消費喚起支援の実施 (2) 事業継続に向けた建設年度末実施可能な支援の実施 (3) コロナ禍対策としてのプレミアム商品券の発行等、個人消費喚起の実施 (4) キャッシュレス普及推進に向けた中小クレジットカード事業者の状況を踏まえた加盟店手数料の減額・引下げ等の支援の強化	6. サービス業支援の強化・拡充 (1) コロナ禍対策としての観光関連産業への消費・需要喚起支援の長期実施 (2) 被災地復興のための観光戦略の構築、連携的な取組みに対する支援強化 (3) 高規格研修訓練の整備拡充、高規格研修機能の維持・強化 (4) コロナ禍の新しい生活様式に対応した助成措置の創設
7. 官公需対策の強力な推進 (1) 緊急給付契約・前倒し発注の実施など官公需調達組合等の積極的活用、災害協定等締結等への官公需調達組合等への優先発注 (2) 予定価格競争の促進、協定方式の統一、働き方改革関連法に抵触しない必要経費の適切な計上 (3) コロナ対策として納期や工場の柔軟な対応、発注機関からの一方的な減額要求の禁止 (4) 少額給付契約の正確な応募、消費税率引上げ等を勘案した適用税率の大幅な引上げ		

令和2年度 第2回常任理事会を開催

本会の令和2年度第2回常任理事会が令和2年10月28日(水)に徳島市のホテルサンシャイン 徳島アネックスにおいて開催されました。

常任理事会では、令和2年度上半期事業報告書・中間決算書、下半期の主な事業計画、会員の加入脱退等について協議されました。



Web 会議ツール活用研修会を開催

令和2年11月11日、徳島市のホテルサンシャイン徳島アネックスにおいて、Web 会議ツール活用研修会を開催しました。

本研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、様々な社会活動・経済活動が制限され、中小企業においても、展示会や遠隔地との商談などでオンライン化が進む中、リモート会議のシステム構築やテレワークの導入といったオンラインコミュニケーションを取り入れ、今後、持続可能な企業活動を行って頂くことを目的に開催しました。

なお、講師にはNTT ビジネスソリューションズ株式会社四国支店愛媛ビジネス営業部の営業推進担当課長の濱野恭一氏をお招きし、「ウィズコロナ時代における新しいビジネススタイル～ Web 会議ツールによるテレワークやリモート会議等の実施～」をテーマに、テレワークの現状と課題、遠隔会議ツールの説明などのほか、Zoom の実演も行い、参加者は熱心に聴講されていました。



効果的な中小企業販路開拓支援事業 実践模擬商談会を開催

令和2年11月18日、徳島市のホテルサンシャイン徳島アネックスにおいて、効果的な中小企業販路開拓支援事業の実践模擬商談会を開催しました。

本模擬商談会は、令和2年12月7日～9日、東京ビッグサイトにおいて開催される「中小企業新ものづくり・新サービス展」の出展事業者などを対象に、実践的な商談力の向上を図り、今後の効果的な販路開拓を実施して頂くことを目的に開催しました。

なお、専門家には認定特定非営利活動法人 経営支援 NPO クラブから内田 安弘氏、長 和雄氏、松下 隆氏、山本 健治氏をお招きし、参加企業からプレゼンテーション（会社紹介や商品説明）の後、専門家から商品のターゲット、ブランド力の向上、販路などについてのアドバイスがあり、参加者からは新たな気づきや具体的な方策の提言が得られたなどの好評を頂きました。



組合活性化情報令和元年度第1号から中央会事務局職員が会員の皆様に、より親しんでもらえるよう、プライベートなこと（趣味、特技、熱中している物事、最近気になっている物事など）について、綴っていきます。第7回目は、沖津主事です。

沖津 美舟 [総務課・主事]

①自己紹介

私は、徳島県の北部にある阿波市で生まれ育ちました。小さい頃は落ち着きがなく、家の中でも走り回って障子を破り、「いごいごせられん！」とよく怒られていた記憶があります。2歳上の姉とは一緒に遊んではケンカをしていましたが、今では身近な相談相手として頼りにしています。

②Uターン転職

大学時代を京都で過ごし、卒業後は2年間大阪の会社で勤務していました。その後、当会が職員を募集していると耳にし、縁があればいいなあという気持ちで応募しました。運良く中央会との縁があり、入会してから1年10ヶ月が過ぎました。はじめは、徳島の地名や道など分からないことばかりで不安もありましたが、家族のサポートや周りの方の優しさに助けられながら学びの多い毎日を過ごすことができています。

③趣味

週末は、映画を観たり読書をしたりとゆっくり過ごすことが好きですが、長期休暇での旅行も趣味の一つになっています。20歳の節目にパスポートを取得してからは、海外へも足を運びました。もっといろんなところへ行ってみたいと思っていたところ、この状況で旅行ができず、行きたい場所がどんどん増えていく一方です。

旅行や他の地域での生活を経験することで、いつも当たり前にあると思っていたことがありがたいことだということに改めて気づかされます。今後も小さな気づきを忘れないよう、いろんなことに興味を持って挑戦していきたいと思います。

2018年1月
鹿児島旅行（霧島）での
1枚です





お知らせコーナー

新型コロナウイルス感染症対策



～徳島県新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に関する条例が制定されました！～

徳島県において、県内の社会経済活動の引上げとの両立を図りながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止することを目的として、「徳島県新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に関する条例」が制定され、令和2年10月16日施行されました。

「徳島県新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に関する条例」の主な内容

事業者の皆様へ

① 3密の回避など基本的な対策に取り組みましょう

② 「感染拡大予防ガイドライン」を遵守してください!

※既存のガイドラインを参考に各事業者で作成いただいても構いません

「事業者版スマートライフ宣言」又は「ガイドライン実践店ステッカー」を掲示してください!

「とくしまコロナお知らせシステム」に登録・掲示してください!

赤文字は
義務です

事業者版 スマートライフ宣言の 入手方法

条例特設サイトより
様式をダウンロード

各施設で取組を記入

施設の
入口等に掲示

裏面の宣言書も
ご活用ください!



ガイドライン実践店 ステッカーの 申し込み方法

各業界団体(組合、協会など)
から県に申請

県より
申請団体へ
ステッカーを配布

各団体において加入施設の
取組状況を確認し、
ステッカーを配布・掲示



とくしまコロナ お知らせシステムの 登録方法

店舗名や
施設名、
イベントを登録

登録した
メールアドレスに
二次元バーコードが届く

店舗の入口等に
二次元バーコードを
掲示



本紙裏面の「とくしまスマートライフ宣言」を切り取って
感染拡大防止のため、店舗・施設へ掲示してください。

県民の皆様へ

① 基本的な対策に取り組みましょう

※3密の回避、マスク着用、咳エチケット、手洗い・手指消毒など

② 感染予防に取り組んでいる店舗・施設を利用しましょう

※「事業者版スマートライフ宣言」「ガイドライン実践店ステッカー」掲示施設

③ 国・接触確認アプリ「COCOA」や

「とくしまコロナお知らせシステム」を活用しましょう

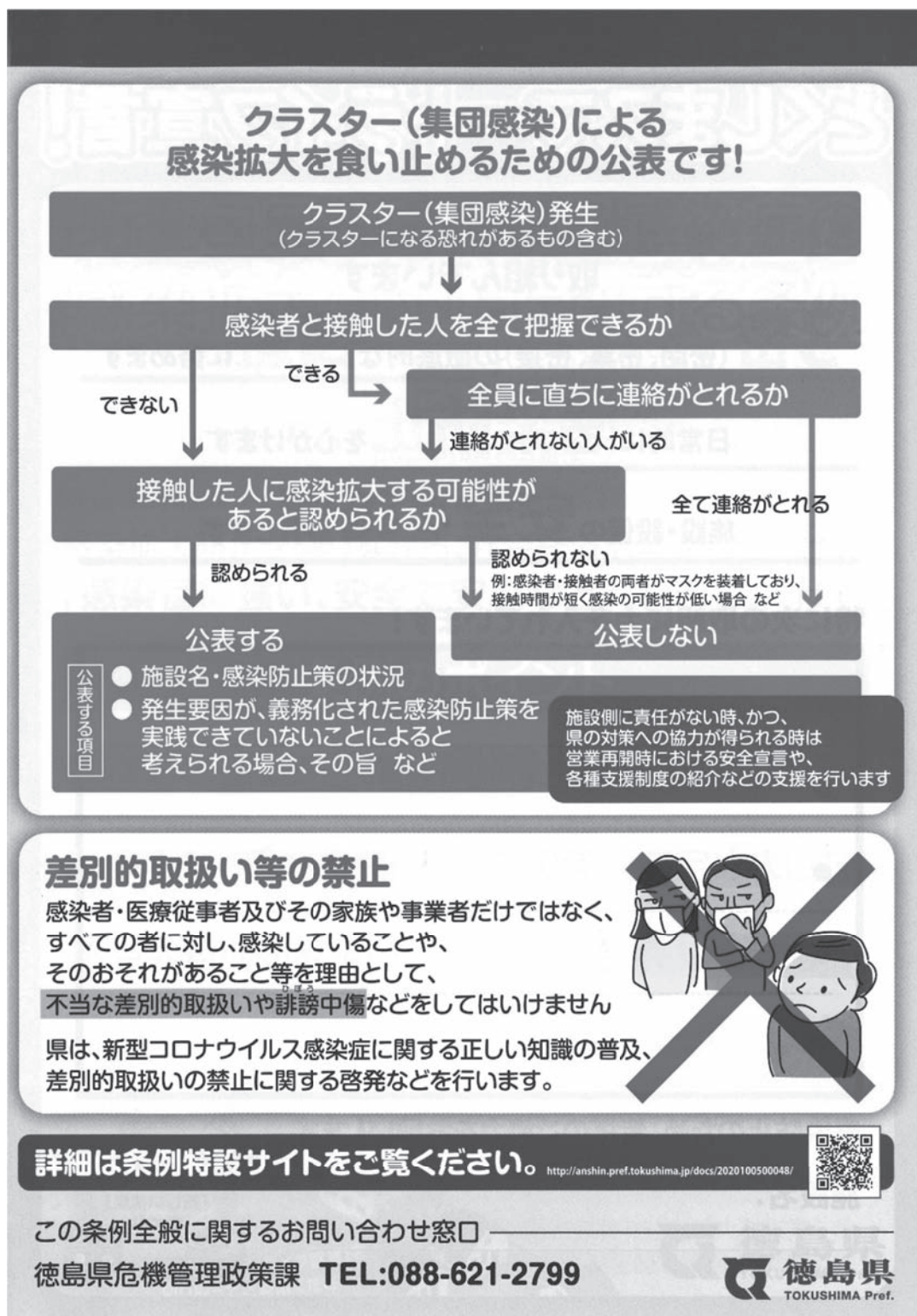
県の責務

① 「感染拡大防止」と「社会経済活動の引上げ」の両立に取り組めます

② 市町村と緊密な連携を図ります

この条例では、感染拡大の防止に関する事業者・県民の役割や県の責務のほか、クラスター発生施設の公表や差別的取扱い等の禁止等について定められています。

事業者の皆様には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図りながら、社会経済活動を引き上げる「感染症に強い、安全で安心なとくしま」に向けて、本条例内容の遵守にご協力をお願いします。



編集 後記

- ◆ 新年おめでとうございます。今年も本誌の編集内容を一層充実させていきたいと思います。第 157 号発刊にあたり、関係機関の方々からご協力いただきありがとうございました。厚くお礼申し上げます。
- ◆ 昨年皆様から好評を頂いた新年特別企画である新春対談を巻頭に掲載しています。今回は、「令和 2 年の経済状況と令和 3 年の徳島経済の見通し、女性の活躍と働き方改革の推進について」のテーマで、一般社団法人徳島経済同友会の坂田千代子代表幹事と本会の布川徹会長に対談して頂きました。ご一読頂き、会員の皆様が、厳しい環境を乗り越え、新しい生活様式や働き方改革への対応、新たな事業活動などを行う際の参考にして頂ければと思います。また、特集では、「徳島県の労働事情」を掲載しています。詳細については、中央会までお問い合わせ下さい。
- ◆ ものづくりの達人では、井口鉄工所株式会社を紹介しています。井口社長に、事業承継後、生産工程の見直しや加工技術の向上などに取り組まれたお話を伺い、ものづくりに対する強い想いと情熱で、長年培ってきた高い技術力と加工ノウハウを活かした高品質の製品を提供され、また顧客のニーズに丁寧で柔軟に対応されている姿勢が顧客の大きな信頼に繋がっていると感じました。さらに社長の気さくなお人柄は、顧客のニーズを汲み取るコミュニケーションを生み出し、そのお人柄に惹かれて受注を頂くこともあるのではと感じました。この度は貴重なお時間を頂きありがとうございました。
- ◆ 新しい年を迎えると、例年であれば各組合・団体などにおいて、新年会が開催されます。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、新年会の中止・規模縮小などが相次ぎ、例年とは違い淋しい年明けとなりそうです。新型コロナウイルス感染予防だけでなく、この時期は、インフルエンザへの予防も必要となりますので、インフルエンザと併せて注意を払いたいものです。皆様も体調管理には、お気を付けください。

vol. 03
令和2年度 第3号
(年間4回発行 通巻第157号)

組合活性化情報 中央会とくしま



吉野川橋と眉山 水彩画/布川 嘉樹